ゆうでんかい 大阪電気通信大学友電会

大阪電気通信大学同窓会組織

YUDENKAI

The Alumni Association of Osaka Electro-Communication University

No.113
2011/10





炎天下の中、支援作業の合い間にひと休み。
疲れもみせず頑張る学生ボランティア隊



学園の心を届けた学生ボランティア隊

特集

「グラフ・被災地に寄り添う母校学生ボランティア隊」
「平成23年度3同窓会総会・合同懇親会　同窓が被災地、岩手・宮古市から母校に里帰り」

体感温度30度を超す容赦のない日照りの中、黙々と作業に汗を流す学生ボランティア隊











宮古市鍬ケ崎小学校で地域の皆さんや子供たちと交流、大阪名物「たこ焼き」をプレゼント。子供たちとの会話の後、「励ますつもりが、元気をもらった」と学生ら。宮古市災害ボランティアのブログには「大阪電通大の名が、宮古に語り継がれますように」と記されています。









宮古市の復興は漁業から。母校・福田國彌理事長から託された漁船３隻の目録を宮古漁協・大井誠治組合長に手渡す石井徳章教授



岩手日報　2011年（平成23年）8月11日（木曜日）

漁業復興へ船3隻

宮古漁協に大阪電気通信大

大阪府の大阪電気通信大の学生と教職員33人は10日、宮古市の宮古漁協（大井誠治組合長）を訪れ、同大が寄贈する小型漁船3隻の目録を渡した。

石井徳章教授が「宮古市は漁業の盛んな地。一日も早い復興を心から願う」と述べ、大井組合長に目録を手渡した。大井組合長は「大変ありがたい。有効に漁業者に使っていただく」と感謝した。

同漁協では漁船登録する1032隻のうち約9割が流失した。寄贈される小型漁船は船外機付きで1隻約100万円。同大開学50周年記念事業の規模を縮小し、贈呈費用の一部に充てた。納期は約3カ月後になる見込み。

同大の学生と教職員は9日までの4日間、宮古市内の側溝の泥除去や、対話による被災者の心のケアなどのボランティア活動を実施。鍬ケ崎小では子どもたちや地域住民との交流会も開いた。

学生リーダーを務めた博士課程の辻琢磨さん(25)は「活動しているときは大変だったが、喜んでもらえて本当によかった」と充実の表情を見せた。



大井誠治組合長に目録を手渡す大阪電気通信大の石井徳章教授（左）

岩手日報　二〇一一年（平成二十三年）八月十一日（木曜日）　掲載記事より

Contents

ゆうでんかい

大阪電気通信大学・同窓会組織　友電会会誌

わたしたちの誇り「学生ボランティア隊」…… 03

学園の心を届けてくれてありがとう
産経新聞社記者　井野川　一(E10)

平成23年度 3同窓会総会…… 07

平成23年度 友電会総会 記念講演会 …… 09

今の時代、なぜ金融教育か！
母校・金融経済学部 部長
アセット・マネジメント学科　寺田　貢 教授

岩手・宮古市から里帰りした菅野さんを迎えた
平成23年度 3同窓会合同懇親会 …… 15

支部だより …… 19

- 友電会東海総支部「平成23年度総会」開催報告
- わが町の地場産業にふれて＝川越・岡田畳本店を見学＝　北関東支部
- 神戸支部がロボット製作講習会
- 県内産業を訪ねて＝日産自動車㈱横浜工場を見学＝　神奈川支部
- 友電会九州支部第1回総会・懇親会を開催
- びわこ支部設立20周年記念総会

クラブ同窓会 …… 22

- 体育会柔道部が鳥取県武道館で夏合宿
- 「WV（ワンダーフォーゲル）部OB会IN上高地」、今年も楽しみました
- 大高駿輔君の思い出のキャンプファイヤー

母校だより …… 26

- 母校創設時建設の第1号校舎のB号館が取り壊し
- 母校が「原発事故と放射線」をテーマに公開講座
- 東日本大震災復興に寄添う母校の心・オリジナルポロシャツが完成、教職員に配布

北から南から …… 28

- 会員の情報交換コーナー

■ 会誌への投稿や事務局への連絡等はE-mailかFAX.で
友電会事務局　FAX:072−824−1197
E−mail:yudenkai@yudenkai.org

2011年10月11日　第113号

発 行 所／ 大阪電気通信大学友電会（大阪電気通信大学同窓会組織）
YUDENKAI The Alumni Association of Osaka Electro-Communication University
〒572-8530　大阪府寝屋川市初町18番8号
18-8Hatsu-Machi Neyagawa-City Osaka Japan 572-8530
（友電会直通）TEL：072-824-3111　FAX：072-824-1197
（大学代表）　TEL：072-824-1131　内線3266
郵便振替番号　00990-5-49361
発行責任／ 友電会会長　猿渡　洋
編集責任／ 友電会広報部会長　田中稲夫
編　　集／ 池本善一、岡本清孝、川口明良、野田鐘一、平岡　臨、藤田英治、藤本　明、水谷元也
資料提供／ 学校法人大阪電気通信大学
大阪電気通信大学事務局他
寄 贈 先／ 大阪電気通信大学関係先をはじめ他大学同窓会並びに国立国会図書館遂次刊行物部、その他
購 読 料／ 1年間　500円
（卒業後3年間は無料配布、総会通知号は全会員に）
印　　刷／ ダイコロ株式会社

わたしたちの誇り「学生ボランティア隊」。

学園の心を届けてくれてありがとう

産経新聞社記者　井野川　一(E10)

■被災地と寄り添う学園の心を伝えた学生ボランティア隊が帰学

皆さんは私たちの誇りです一。東日本大震災で大きな被害を受けた岩手・宮古市へ支援活動に派遣されていた大阪電気通信大学の学生ボランティア隊26人が8月11日午前7時、支援隊輸送のゴリラバスで寝屋川市の母校へ帰ってきました。早朝にもかかわらず法人本部、藤田智一法人事務局長や学園関係者、それに友電会、田中稲夫・水谷元也の両理事らが出迎え、拍手を送っていました。

■疲れもみせず代表して辻さんが帰学報告

バスが正門から入ってくると守衛さんが敬礼、バスターミナルに誘導。ドアが開き学生らが降りてくると、拍手とともに「ご苦労さん」の声があちこちから挙がりました。

隊員の顔は、連日の野外での活動を伺わせるように日焼けして真っ黒。バスのトランクから、テントや折りたたみ机を取り出したあと整列。学生ボランティア隊を代表して工学研究科制御機械工学専攻　博士課程の辻　琢磨さんが「支援活動を終え、無事に帰ってきました」と報告しました。



■隊長の石井教授が「よく頑張った」とねぎらう

続いて引率した隊長の石井徳章機械工学科教授が、「炎天下の中、全員よく頑張ってくれました。無事でうれしい。宮古市の方々に皆さんの心が通じたことでしょう。この経験を基にして、人間的に成長して頂ければこの上ない喜び

です。皆さんは、私たちの誇りです。ご苦労様でした」と、ボランティア隊員にねぎらいの言葉をかけていました。



(「ボランティア活動を通し、人間的に成長していただきたい」と学生らに期待を寄せる石井団長)

■藤田事務局長が福田理事長の感謝の心を伝える

出迎えた藤田事務局長は、「福田國彌理事長は、皆さんの活動に感謝されておられます。後日、今回のボランティア活動の慰労を兼ねた報告会を予定しています。苦労話など聞かせてください。皆さんは良い経験をされました。この経験は社会で役立つと思います。お疲れ様でした」と述べ、石井隊長と握手を交わしました。



■学生らの声に呼応しボランティア隊派遣が決まる

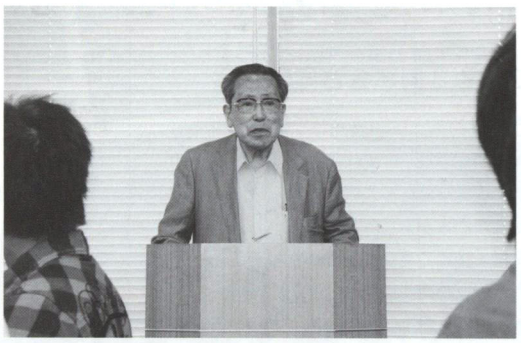
母校では3月の被災直後、学生の間から「何かボランティアは出来ないか」と声が上がり、これを受けておもに東北、北海道方面の教職員の方々で取組方法が考えられました。その思いや声は次第に大きくなり、岩手・宮古市出身の早野秀樹事務次長が同市在住の卒業生らと日程調整、7月末に日程を決め学生らに一斉メールで案内を配信。説明会や個別面接などを重ね、今回26人の学生ボランティアが決まり、教職員8人が加わり総勢34人が派遣されました。期間は、8月5日から7日間。

■「大阪電気通信大学の学生らしい活動を」と福田理事長

壮行会は5日行われ、福田理事長は「ぜひ一緒に行きたいものですが、この歳では邪魔になるかもしれません。何もかも出来るわけではありません。無理はしないでください。それよりも大阪電気通信大学の学生さんの一言と気持ちが素晴らしい、と言われるように行動してください。」と激励しました。



(「心をひとつにして復興のお手伝いをしてきます」と、福田理事長に学生を代表して決意表明をする辻氏。学生の心意気に大きく頷き「頑張ってきてください」と声をかけられていました



(大阪電気通信大学の学生さんの一言と気持ちが素晴らしい、と言われるように行動してください。ボランティア隊の学生に目を細め、にこやかに激励されていました)

■ゴリラバスで被災地の岩手・宮古市へ

隊員らは5日午前、支援用の寝屋川学舎と四條畷学舎を結ぶシャトルバス・愛称「ゴリラバス」で母校・寝屋川学舎から岩手・宮古市へ出発。福田理事長や都倉信樹学長、野田哲治友電会副会長ら多くの学園関係者が見送りました。

■出発前、同窓で海自OB、川口氏が注意事項を。野田副会長が支援金を

出発にあたり、現地での注意を友電会組織部会長、川口明良氏(元海上自衛隊一等海佐、F04)が、自衛隊や同隊OBから収集した情報を元にアドバイスしました。

「1．地域の方々とのコミュニティを大切に。2．まだ余震があります。ご自身の避難経路を必ず確保していてください。3．まわりを見て作業をし、他の人の安全も気をつけましょう。4．食中毒等の原因になるお弁当の管理をしましょう。5．ストレスをためない。ストレスはお土産に持って帰らないでください」ーなどと注意事項を話しました。

友電会副会長、野田哲治氏(F03)からは、ボランティアの一助にと石井隊長に支援金が贈られました。



(ボランティアでの注意事項を話す川口友電会組織部会長。ご自信も自衛隊や同OBらと仙台市へ数度支援活動に行かれた経験からの言葉に、学生らは真剣に聞き入っていました)



(「ボランティア活動に役立ててください」と、石井隊長に支援金を手渡す野田副会長。同行の教職員から感謝の声が聞かれました)

■容赦のない日照り、体感温度30度を超す気温の中で支援活動

現地では連日、容赦ない日照りが続きました。ちなみに、現地で支援活動を行った6日から9日までの東北・宮古市地方の天候は、太平洋高気圧に覆われ晴天続き。気象庁のデータによりますと、6日の最高気温26.1度、湿度平均88%、風速1.5㍍の至軽風(しけいふう＝煙は風向きがわかる程度にたなびく。ほぼ無風状態)、日照時間8.6時間。

岩手・盛岡地方気象台に聞きますと「体感温度は30度を超えていたでしょう」とのこと。

ピークは8日で、最高気温28.2度、湿度平均90%、風速1.8の㍍軽風(けいふう＝顔に風を感じる。木の葉が揺れる)、日照時間は5.9時間でした。

そんな悪条件の中で、床上浸水した家屋の床下に溜まった泥のかき出し、運搬作業等、過酷な支援活動の連続だったそうです。

■「大阪電気通信大学ここにあり」と宮古市災害ボランティアセンターのブログに

被災地に寄り添う学園の心が届けられました。宮古市災害ボランティアセンターのブログを紹介します。

タイトルは、「大阪電気通信大学のみなさん、お疲れ様でした！」。活動メンバーを写真で紹介、最後に「"大阪電通大"の名が、宮古に語り継がれますように。」と書かれていました。

宮古市災害ボランティアセンター ブログ

★みやこボランティア・市民活動情報版★
宮古市内のボランティアや福祉に関する情報をお伝えします！

大阪電気通信大学のみなさん、お疲れ様でした！

●大阪電気通信大学、ここにあり!!

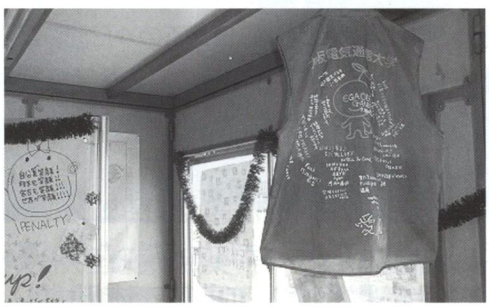
昨日まで3日間、大阪電気通信大学の方々がボランティアとして活動してくれました。
総勢30名以上で、約18時間かけて宮古まで来てくれたんですっ。
なんと派手なバス!!



泥出しや草刈りなど、力仕事を中心に3日間フルで働き、腕は真っ黒↓↓↓
本当に、ご苦労様です m(_ _)m
最後には、みんながメッセージを書いたゼッケンをプ



レゼントしてくれたので、さっそく休憩所に飾らせていただきました！
"大阪電通大"の名が、宮古に語り継がれますように。



■宮古漁協に漁船３隻寄贈

こうした支援とは別に10日には、「復興は地場産業から」と漁船３隻を地元漁協に贈呈しましたほか、母校はこれまでに被災のため入学後わずか１ヶ月で退学を余儀なくされた学生には入学金・授業料全額返還、３年生で全壊の被害を受けた学生には授業料免除措置、２年生で半壊の被害を受けた学生には見舞金を、それぞれ支援しています。

友電会は、被災学生に対し見舞金を送ったほか、菅野氏には地域自治会活動で不可欠なパソコンとプリンター各４台を贈呈。また６月25日開催の平成23年度通常総会・懇親会に招待しました。（友電会HP動画・会誌112号に関連記事）

友電会はこれからも母校とともに支援活動を行っていきます。同窓のご協力を宜しくお願いします。



漁船３隻寄贈　岩手日報に掲載

（平成23年８月11日付記事全文）

漁業復興へ船３隻　宮古漁協に大阪電気通信大学

大阪府の大阪電気通信大学の学生と教職員33名は10日、宮古市の宮古漁協（大井誠治組合長）を訪れ、同大が寄贈する小型漁船３隻の目録を渡した。

石井徳章教授が「宮古市は漁業が盛んな地。一日も早い復興を心から願う」と述べ、大井組合長に目録を手渡した。大井組合長は「大変ありがたい。有効に漁業者に使っていただく」と感謝した。

同漁協では漁船登録する1,032隻のうち約９割が流失した。寄贈される小型漁船は船外機付きで１隻約100万円。同大開学50年事業の規模を縮小し、贈呈費用の一部に充てた。納期は約３カ月後になる見込み。

同大の学生と教職員は９日までの４日間、宮古市の泥除去や、対話による被災者の心のケアなどボランティア活動を実施。鍬ケ崎小では子供たちや地域住民との交流会も開いた。

学生リーダーを務めた博士課程の辻　琢磨さん（25）は「活動しているときは大変だったが、喜んでもらえて本当によかった」と充実の表情をみせた。

■教職員名簿

隊長 石井徳章 教授	機械工学科
小南昌信 教授	通信工学科
大野宣人 教授	基礎理工学科

■事務職員

早野秀樹	大学事務局次長
池宮達雄	法人経理部長
渡邊堅一	教務部課長
清水　学	メディアコミュニケーションセンター
力久竜治	

■学生名簿（順不同、敬称略）

辻　琢磨	大学院工学研究科博士後期課程２年
上橋祐介	〃　工学研究科制御機械工学専攻２年
木下具晶	〃　工学研究科制御機械工学専攻２年
瀧内泰博	〃　工学研究科制御機械工学専攻２年
八木一聡	〃　工学研究科制御機械工学専攻２年
坂上和弘	〃　工学研究科制御機械工学専攻１年
神脇　力	工学部応用化学科３年
中尾洋平	〃　応用化学科３年
瓜生晋一郎	〃　電子機械工学科２年
遠藤　輝	〃　電子機械工学科２年
畔取良磨	〃　電子機械工学科２年
稲村敦人	〃　機械工学科４年
大林智幸	〃　機械工学科４年
更西貴充	〃　機械工学科４年
中村誠志	〃　機械工学科４年
福田哲平	〃　機械工学科４年
川上敏彦	〃　環境技術学科２年
下　貴美子	医療福祉工学科２年
塚本郷土	情報通信学部通信工学科１年
大久保　忍	情報通信工学部情報学科３年
久世崇史	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科4年
美濃　孟	〃　デジタルアート・アニメーション学科2年
福田直央	〃　デジタルアート・アニメーション学科1年
石田達大	〃　メディアコンピュータシステム学科3年
寺本和晃	〃　デジタルゲーム学科1年
中内洋祐	〃　デジタルゲーム学科1年

大学創立50周年の今年、『飛翔』をテーマに大阪電気通信大学3同窓会の総会・合同懇親会が行われました。

学園70年、高校60年、大学50年の各創立記念の今年、学園の同窓会である緑樹会・クラブ同窓会・友電会は平成23年6月25日、駅前キャンパスで、年次報告会・総会を開催。記念講演会のあと合同懇親会が催され、学園と手を携え更なる発展を誓い合いました。

平成23年度 3同窓会 総会

「緑樹会」年次報告会

学園教職員同窓会「大阪電気通信大学緑樹会」（みどりかい）は午後１時20分から、「年次報告会」を開催。同報告会は、友電会・クラブ同窓会の総会日時に合わせて毎年開催しており、今年度は33名が参加。年度内の会員の増減であるとか、役員会の活動報告などが報告されました。

緑樹会は、高校・大学の退職教職員の親睦団体で、133名（6月25日現在）のみなさまが会員として入会されています。しかし、最近大学の雇用形態の変化に伴い、退職後も雇用形態が変わって雇用が続く場合があり、その影響か入会者が少ないのが少し気がかりなことです。

また、今回は、３名〔綱信義（元高校長）、清水潤治・竹本将（元大学教員）〕の会員様の逝去が報告なされたことも、学園の歴史を再認識させられると同時に我が身の心配もさせられた一日でした。

文責　緑樹会　副会長　新宅　寛（元大学事務職員）

クラブ同窓会が総会と学生団体による「クラブ活動目標表明式」

大阪電気通信大学「クラブ同窓会平成23年度通常総会」が午後１時20分から開催されました。事務局提案のとおり全議案は承認されました。

話題を呼んでいる事業計画は11月開催の「トークショー」。テーマは「つながり」で、大学祭に協賛して開催されます。ゲストスピーカーは、高等学校・短大・大学のそれぞれの同窓を招き、社会経験を交え後輩や学生らに語りかけたあと、ディスカッション。今年のゲストスピーカーはまだ公表されていませんが、同窓はもちろん学生らも興味津々。当日のお楽しみと言ったところです。

承認された議案は以下のとおり。

◇議　案：第１号議案　平成22年度事業報告
第２号議案　平成22年度収支決算報告
第３号議案　平成23年度事業計画案
第４号議案　平成23年度収支予算案
第５号議案　平成23年度役員案



真剣なまなざしで議案に聞き入るクラブOBら。総会後の話題は、やはりトークショーのスピーカーのことでした。

クラブ同窓会主催の「平成23年度クラブ活動目標表明式」



今春の新入生勧誘の成果やリーグ戦などの目標を語る役員ら。話しぶりはさすが団体・クラブの幹部、落ち着いたものでした。

「緑樹会」年次報告会



学園の歴史を築かれた教職員OB・OG。
「教え子に会うのが楽しみ」と話しておられました。

課外活動の活性化を－クラブ同窓会主催の「平成23年度クラブ活動目標表明式」が午後0時30分から開催されました。参加したのは5団体と17クラブで、それぞれ活動目標を表明していました。

クラブ同窓会は表明された目標の達成度をチェックし、11月の大学祭で「優秀クラブ活動表彰式」を行います。

友電会総会

「平成23年度大阪電気通信大学友電会総会」が午後1時40分から開催されました。教育支援活動などが含まれた平成24年度予算案を承認。東日本大震災支援活動報告と駅前キャンパスへの寄贈品が報告されました。

事務局長より、定款33条に示す成立条件を確認、本総会は成立していることが報告され審議に入り理事会提案どおり承認されました。



承認された議案は以下のとおりです。

・第1号議案　平成22年度事業報告
・第2号議案　平成22年度収支決算報告
・第3号議案　平成22年度一般会計剰余金処分案
・第4号議案　平成23年度事業計画案
・第5号義案　平成23年度収支予算案
・第6号議案　平成23年度評議員変更案

また、追加された第7号議案「役員の一部変更」も原案どおり承認されました。

友電会寄贈の自動証明書発行機（パピルスV）を駅前学舎に設置

友電会だより　2011年8月20日 15:23

今春竣工した駅前学舎の2階ラウンジ入り口横に、学生にとって大事な各種証明書を自動発行する「自動証明書発行機（パピルスV）」が8月19日設置されました。友電会が竣工記念品として寄贈したもので、6月25日の友電会総会で猿渡友電会会長から福田理事長に目録の贈呈をしていたものです。2色のボディの新型で前面下側には友電会寄贈の銘板プレートが貼られています。

これで、金融経済学部の学生はわざわざ寝屋川キャンパスまで行かなくても、駅前学舎で証明書が取れることになり大変便利になると喜ばれることでしょう。


パピルスV



銘板

平成23年度
友電会総会
記念講演会

今の時代、なぜ金融教育か！



母校・金融経済学部 部長
アセット・マネジメント学科
寺田　貢 教授

経済学・経営学・法学などの実用的な領域を中心に、金融に関する実践のための学問を学べるアセット・マネジメント学科で活躍されている教授で、主な研究テーマは多資産(証券に不動産、保険を加えて)の最適化資産運用理論です。

略歴

昭和45年	神戸大学 法学部　卒業後　住友信託銀行　入行
平成11年	住友信託銀行　取締役
平成19年	株式会社ビジネス・アコード　代表取締役
平成21年	大阪電気通信大学　金融経済学部教授
平成23年	大阪電気通信大学　金融経済学部長

■ 金融教育は自立力を養う教育



本日は金融教育についてお話いたします。結論から言いますと「金融教育は自立力を養う教育」です。大阪電気通信大学金融経済学部では、「自立力を養うためどのような教育を行っているか」ということを紹介し、金融に関する現状をお話しします。

■ 遅れが目立つ日本の金融教育

日本の学生は、米国や台湾のように即戦力にならないと言われています。企業の即戦力というのは、「目的意識」があるかどうかということです。私も企業で採用を担当してきましたが、最近の若者は、「自分はこれをやりたい。これで稼いでいくんだ」という目的意識がないということが、今一番問題になっています。この原因は、日本の金融教育というものが遅れているというからです。

★社会人における金融教育について

(1)知識水準の自己評価

【殆ど知識がない】
- ＊投資について(72%)
- ＊保護の仕組み(71%)
- ＊金融商品について(65%)
- ＊金融の仕組み(55%)

【理由】
- ＊難しいイメージ(57%)
- ＊金融のことを知らなくても生きていける(40%)

(2)金融知識・情報を提供する主体

＊今、どこから得ているのか
⇒ 今後どこから得たいか
- ・金融機関(66% ⇒ 55%)
- ・金融の専門家(30% ⇒ 45%)
- ・特定の業界に属さない団体(14% ⇒ 29%)
- ・家族友人から(43% ⇒ 14%)
- ・学校から(3% ⇒ 7%)

【出典：金融広報中央委員会 「第3回金融に関する消費者アンケート」】

★高校生に対する金融教育について

(1)学校で金融教育の経験

＊ほとんど受けていない(75%)
＊受けたと思うが覚えていない(40%)

(2)学校に対する金融教育の期待

＊もっと積極的に(60%)
＊現状程度(30%)

(3)金融教育の内容は（高校での教育のケース）

＊カードの知識や利用(41%)
＊金融トラブルについて(36%)
＊働く意欲と職業選択(36%)
＊金融・経済の仕組み(34%)
＊金融商品について(34%)
＊生活を支える仕組み(34%)

【出典：金融広報中央委員会 「第３回金融に関する消費者アンケート」】

日本銀行の外郭団体・金融広報中央委員会が2008年に社会人を対象に行った第３回金融に関する消費者アンケートと高校生に対するアンケートです。

■ 高校に基礎的金融専門教育が必要

知識水準の自己評価、投資、仕組みについて３人に２人、知識がないという結果です。そして、知らなくても生きていけるということがその理由です。ところがもうこの時代に401K、サラリーマンは、確定拠出年金というもので、自分で運用しないといけないという制度ができています。このアンケートと制度の差から日本の金融教育というのが遅れているといえます。

高校生では、カードの知識や金融トラブルについてのほか、働く意欲と職業選択、金融・経済の仕組み、金融商品について生活を支える仕組みなど、教育の必要性が問われる結果となっています。

■ 東京証券取引所と金融教育セミナーを

こうした結果を受けて本学では、本年11月19日、この近隣高校の先生を集め「金融教育とはこういうもの」というセミナーを東京証券取引所とタイアップし行います。

金融教育と金融リテラシー

1.金融教育は自立力

2.自立力に必須の金融教育とは

・お金や、金融の働きを知る ⇒
経済・金融の仕組み

・自立するための力 ⇒
生活設計の仕方、働く意義、生きる意欲

・社会、経済と接点を持つ ⇒
金融トラブルに落ちない、社会貢献

3.金融リテラシーは生活力

＊なしでは普通の生活も成り立たない
＊仕事から財産形成まで関係する

■ お金を稼ぐという意義と根拠

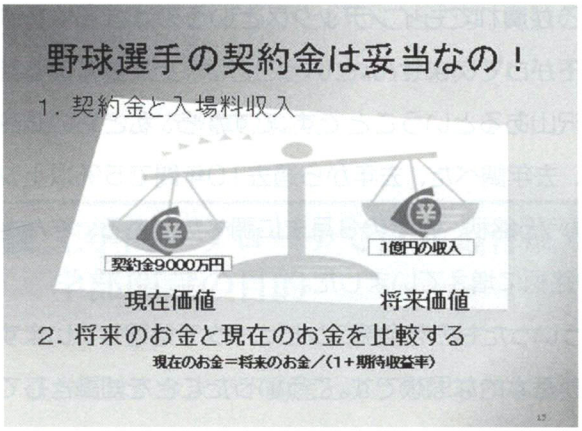
私は、１年生に金融資産管理入門を教えています。そして、皆にアンケートをとります。設問は、「あなた方は音楽が好き、文書を書ける」とか、自分にどういう能力・

才能があるかを全部書かせています。その時の結論を言います。

人間の人的資本は大きく分けて三つしかありません。

一つ目は体力。体力があれば石川遼やイチローのように稼げます。サッカーの選手になって稼げます。何億って稼げます。二つ目は想像力。ミュージシャン、作家そういった想像する力があれば、これも稼げる。三つ目は知力。

だから、皆に知力を磨けと言い続けています。見極めるというのが非常に大事で、その業界で通用する技術があるかどうかということで、稼げるかどうかという根拠になります。



そういうことから、金融経済学部の金融資産管理入門では、１年生に「自らの人的資本である体力、想像力、知力を早く見つけ、人生の目的にするよう」に教えています。

■ ゼミ生、鎌谷広明君（3年）が、難関の証券アナリストに一発合格の快挙

私はこの５月に嬉しいことがありました。私のゼミ生で鎌谷広明君（３年）は、証券アナリスト１次試験に合格しました。それも、証券分析、財務分析、経済３科目一発合格しました。

われわれでも合格するのは大変な資格です。それを一発で合格しました。３年生で統計をとると、大学生で合格したのは300人。一発合格はその２割で60人。大学を調べたところ東大10人、一橋、京大がほとんど。他大学では九州大学、広島大学、神戸大学では一発合格は誰もいませんでした。もちろん関関同立はいません。

そういった意味で私は、彼が一発合格ということで嬉しく思っています。そして彼は、来年の５月、１年に１回の２次試験を受けますが、さらに難しい。合格するのは20人ぐらいでしょう。そういう快挙をやってくれました。やはり彼が合格したのは目的意識だと思います。彼を高校のオリエンテーションで話をさせますが、やはり目的意識を持つことの大切さを語っています。

■ 本当に価値があるのか

「本当に価値があるのか」を、頭に入れて生活していかなければいけません。

野球の選手の評価。契約金が９千万。この人が入り活躍することによって、入場料が増える分が１億円、この９千万という契約金は高くない、といったことを考えます。まさに将来のお金と現在のお金を比較するという考え方です。これは、株式とか債券の基本的な考え方です。

パナソニックの株、今いくらかの値がついています。例えば、パナソニックの株が１株あたり100円ずつを無限に配当するとした場合には、現在の株はいくらになりますかと、この考え方で全部株価は計算できます。

これは、私どもは、ゼミなどでしていますが、東証一部1,700銘柄ぐらいあります。私のゼミ生は５人いますが、これを300銘柄ずつ担当し全部のデータベースを作っています。インデックスは、過去10年マイナスの3.7%。ところが10年間のパフォーマンスが３割、４割というのは、ざらにあります。

たとえばJALが潰れてしまった、このような巨大な

http://www.yudenkai.org

ところが潰れてもインデックスというのは3%くらいしか下がっていません。ということは、上がっている銘柄が沢山あるということです。ですから、私どもの調べでは、去年調べた、去年から過去10年間で5%以上プラスが75銘柄、今年の3月末に調べたところ、なんと300銘柄に増えていました。

そういったものを全部コンピュータで処理しています。これが基本的な思想です。こういったことを知識として入れていかれれば、少し考え方がわかるかもしれません。

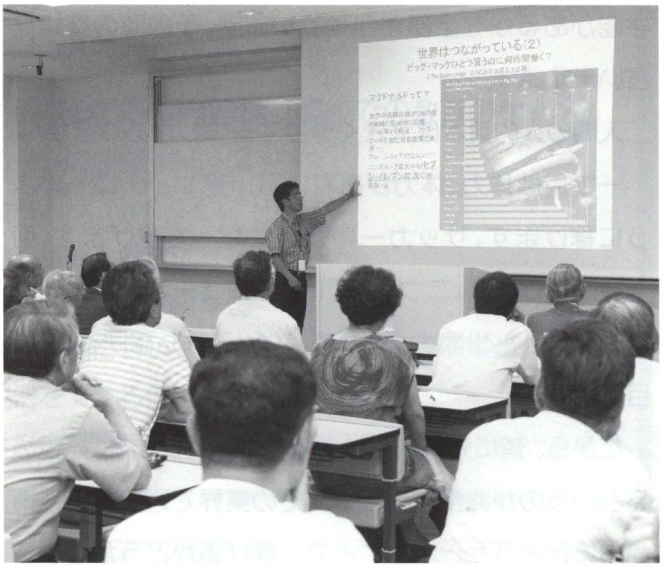
■ 金融トラブルの要因は「読み説く力」のなさ

金融リテラシーという面の金融トラブルは学校法人が一例としてあげられます。2～3年前に他大学が、500億損したなどと新聞に出ました。基本的には、社会人として担当者として、金融に関する読み解く力がないといえます。

皆さんのところに、投資信託とかを買うと目論見書が送られてくる、その目論見書を読んだ方いらっしゃるでしょうか？。僕らも基本的には全部読みます。目論見書を読まないと絶対だめです。私が運用部長で、ある運用をやっていたときに、証券会社が「こういう商品があります」、といって、持ってきましたが、「ここがブラックボックスでしょ、ブラックボックスのものはやらない」ということで、一切しませんでした。

■ 金融界への工学的アプローチで資金の運用と管理

現在の経済情勢を背景にどういう資金を運用または管理していけばいいでしょう。グローバル化した金融情報は次のように溢れています。



1. 世界はつながっている
2. グローバル化する、消費・労働・製造
3. グローバル化する、企業・マーケット
4. 世界の上場株式数は4万5千(日本3千)
5. 溢れる金融情報(株式・債券・為替・商品・不動産等)
6. 情報の選択・加工能力 ⇒ 読み解く能力

世界の上場株式は4万5千、日本は3千。4万5千に債権、商品、そういうものを入れると上場されているのは、約6万あります。

私たちが運用をやっていたころは、こんなにはありませんでしたが、今はこんなにあります。あふれる金融情報です。株式、債権、為替商品、不動産。不動産もそうです。不動産は上場されて切り売りされています。そういったことをどう情報を選択して、加工して、読み解く能力をつけていくか、というのが大事なことです。これは工学部の仕事です。

基本的な考え方は、数学、物理、情報工学です。私は法学部出身なのでわかりません。工学的アプローチを使えばすぐできます。不得意な数理計画、2次計画法、一次計画法もパソコンを使います。パソコンの関数を使

えばあっという間に最適化できます。私の授業では、徹底して難しい数学は基本的なことを教えますが、あとはパソコンで最適化を教えこんでいきます。

■ 金融への工学的アプローチ実践 ゼミ生が300銘柄を計算

2000年頃からものすごい勢いで変わってきました。情報通信技術の発展で、飛躍的に数学がわからなくても金融の分析がパソコンで一気にできるようになりました。それは関数です。関数を使えばすべての計算ができるということです。

私のゼミ生で、１人300銘柄を、毎週ゼミを５時から８時までします。駅前キャンパス２階のメディアセンターというところに「ブルームバーグ」という機械から銘柄を取り出し、過去10年間の時価平均利回りを全部算出、そしてそれを1,700銘柄順位仕分けし、それらのパフォーマンスがどのROE、１株当たりの利益・配当率、どの要因によって値上がりが大きいかを全部計算しています。

ゼミ生は５人ですが理系は１人です。あとはみな文系からきています。それでもパソコンを使えば、できます。こういった工学的アプローチというのは、パソコンを使いこなせるかどうかということです。関数のノウハウが必要ですが、リスクについてのアプローチは瞬時にパソコンで計算します。

■ 工学的アプローチで自立力育成が 学部開設の目的

証券では、今まで不動産というのはなかなか扱いきれませんでした。不動産というのは多額のお金を出さなければ買えませんでした。ところが今は「100分の１の不動産をください」といった感じで、不動産が細分化されています。

そういった形で、不動産の権利とか信用力、国や会社の信用力さえも売買される時代です。信用を加工したり、信用を細分化したりすることができることになったということで、それも基礎となるのはパソコンです。背景は数学ですが、我々実務家にとっては、パソコンを使えばいとも簡単にできます。

これが工学的アプローチです。大阪電気通信大学の金融経済学部を開設した目的でもあり、世間が認めていることだと思います。

株式会社 オンテック
ONTEC CO.,LTD.

プリント回路関連事業
●プリント基板設計事業
●プリント基板製造事業
●プリント基板実装事業
●EDMS事業

システムソリューション事業
●エンベデッド事業
●ビデオコミュニケーション事業
●特機事業

ontec
http://www.ontec.co.jp

本社
〒564-0062
大阪府吹田市垂水町３-20-27
TEL 06-6338-8581
FAX 06-6338-8593

スピードと変革が求められる現代社会
新しい発想でビジネスを切り拓きます。

【事業内容】
ソフトウェア開発、コンピュータ機器の販売、経営コンサルタント業務、IT教育事業、WEBシステム開発、CG・CMの制作、自然食品販売

FCS FUJI COMPUTER SALES 富士コンピュータ販売株式会社
本社 〒675-0034 兵庫県加古川市加古川町稲屋790-１
TEL：079-427-1111　FAX：079-427-0123
HP http://www.fujicomp.co.jp

■ 金融教育は中高生、大学生にとって自立力育成に不可欠



中高生、大学生にとって金融教育は自立力を高める上で非常に大事なことです。働く意義・人的資本の自覚・どういう仕事をしたいのかーこういったことを早めに自覚させることは必要不可欠なことです。

本学は実践教育として『即戦力』と『専門性』を計画的に行っています。即戦力は徹底して目的意識を植え付けようとしています。なかなか最近の若者はついてきてくれないという風潮がありますが、本学では着実に定着してきています。専門性というのは資格です。徹底して取得させます。

私は住友信託銀行出身ですが、同行には資格群があり、課長になるには資格群から30ポイント取らないと課長にはなれません。例えば、証券アナリスト１次は何点というように配点されています。英語はTOEIC全員450点以上、必要としています。企業において社会人として実力を証明するのは資格で、専門性のひとつは資格だということも徹底して教え込みます。

その結果、現在の３年生約130人いますが、ほとんどがFP ２級、FP ３級、簿記２級、簿記３級などの資格を取得しています。

■ 工学的知識を駆使した自立力育成に力を注ぐ

さらに工学的知識であるパソコン技術の習得です。徹底して技術として教え込んでいきます。個別銘柄の選定の仕方というのは、パソコンでします。

四季報を見るような時代ではなくなりました。一瞬にして、スクリーニングをかけるという時代です。その意味で工学的アプローチというのは、数学を勉強しなさいというのではなくて、パソコンを駆使し関数やグラフ、他にピボットテーブルなどソーティングの技術など、パッと視覚化することによって判断していくという時代に対応できる人材育成につとめています。

私たちが、「手と頭と心を同時に動かす実践型教育」と「不断に学びを続け、自己の成長に努力を惜しまない姿勢」などを実践教育している姿勢をお話して、終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

（記念講演会全文は友電会ＨＰ参照）
http://www.yudenkai.org/category/news/post_149.html

蛍光Ｘ線分析機器の専門プロ集団
株式会社 テクノエックス
70個の部品１個１個から作り上げる
設計力と業界一の技術力
技術社員募集中!!
■ 小型Ｘ線管　■ 小型Ｘ線CCDカメラ
■ Ｘ線検出器　■ Ｘ線信号処理
〒533-0033　大阪市東淀川区東中島5丁目18番20号
TEL:06-6323-1100　FAX:06-6323-7770
URL:http://techno-x.co.jp

IT機器・通信機器の販売・保守ならびにソフト開発・
システム販売・事務機器の販売・パソコン教室
営業職・技術職 社員募集中
イナハラの特徴
1. メーカーにとらわれない独立系の専門商社！
2. 営業・技術・メーカーとの連携の強さ！
3. 学歴・年齢・男女関係なく、実力を最大限評価！
4. 研修制度（社内、社外研修）の充実！
inahara
株式会社 イナハラ
採用問い合わせ
総務部 前田
〒651-0086 神戸市中央区磯上通4-1-26　TEL. 078-231-4088
URL.http://www.inahara.co.jp

平成23年度

3同窓会合同懇親会

●3同窓会合同懇親会式次第

16:00	黙　禱	
16:10	開会宣言	友電会担当副会長
	大学歌斉唱	
	主催者あいさつ	石桁正士　緑樹会会長
	主催者代表あいさつ	猿渡　洋　友電会会長
	駅前キャンパス竣工記念品目録贈呈	
	来賓あいさつ	福田國彌　理事長
	来賓あいさつ	都倉信樹　学　長
	乾杯の音頭	南　茂夫　元学長
	歓談(吹奏楽団演奏)	
16:30	祝電披露	
	柴垣佳明さん(28期生)と新川拓也さん(29期生)の2人の教授昇任お祝贈呈	
	菅野和夫氏見舞い支援品の紹介と本人あいさつ	
	歓　談	
17:40	出席者記念写真(緑樹会、来賓・母校の教職員、会員・卒業期で分けて撮影)	
18:00	中締め及び閉会宣言	平岡　臨　クラブ同窓会会長
	散　会	



軽妙な語りで総合司会をされた柴垣先生。汗をかきながらも笑顔で進行されていました。

「緊張しました。講義や発表などでマイクは使い慣れているのですが、恩師・大学の大先輩の視線が気になりました。大学の教員ではなく、完全に大学の『後輩』になっていましたね。先輩方、迫力ありますね」

学歌斉唱



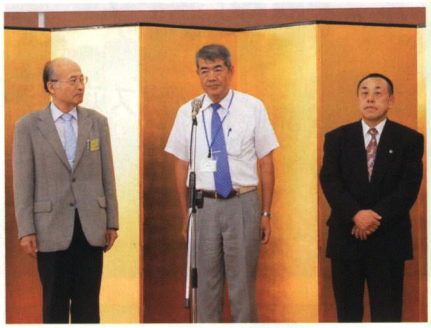


応援団OBがリーダーとなり、吹奏楽団が演奏しました。久しぶりに見る応援団の「雄姿」。青春時代にもどり、声たからかに斉唱しました。

▶主催者あいさつ

主催者を代表してあいさつをされた教職員同窓会「緑樹会」、石桁会長。懐かしい教え子を前に目を細めながら話しておられました。





「緑樹会は、教員・職員・役員のOBからなる会です。こういう教職員の同窓会を持っている大学は、珍しいのではないでしょうか。現在133名の会員数です。毎年1回は会報を出し、母校の役に立つようにと考えております。」



やや緊張気味にあいさつをされた猿渡友電会会長。大学を現在の隆盛に導かれた福田理事長に『中興の祖・福田先生』、と深々と頭を下げられていました。

「次々と建設される四條畷、J号館、駅前キャンパスは、おおいに大学の名声を高めていただいています。今日は、昭和40年の頃、50年の頃にタイムスリップできる機会です。先輩後輩と楽しいひとときをお過ごしください。」

記念撮影

「飛翔・絆」を願い記念撮影。互いに手をにぎり合い大学発展を誓い合いました。



岩手・宮古市から里帰りした菅野さんを迎えた

3同窓会合同懇親会



3同窓会合同懇親会は平成23年6月25日午後4時から、寝屋川キャンパスJ号館に場所を移し開催されました。東日本大震災の被災地、岩手・宮古市から「第二の故郷・母校」へ帰省した菅野和夫さん(F03)。「生きて帰ってまいりました」とあいさつすると恩師・同窓から「おかえり～。頑張って」と声がかけられ拍手がわきおこっていました。

駅前キャンパス竣工記念品目録贈呈



司会者が記念品を紹介、猿渡　洋会長が福田理事長に目録を贈呈しました。

司会者　「駅前キャンパス竣工記念品贈呈を行います。先ほど総会をいたしました駅前キャンパスが、このほど完成いたしました。友電会は駅前キャンパス竣工記念品として、学生の利便性を考え『証明書自動発行システム』を寄贈することになりました。目録の贈呈を行います。猿渡会長お願いいたします」

▶来賓あいさつ



駅前キャンパス完成は歴史の通過点。寝屋川市を大阪電気通信大学街にしたいと協力を呼びかけておられました。かくしゃくたる福田先生。いつまでもお元気で。

「本年は、大学開設50周年、この記念すべき年に偶然駅前キャンパスが完成しました。今までも、日本で初めての学科を開設してまいりましたが、環境科学科を開設。工学部を引っ張っていく学科になることを願っています。」

記念撮影



緑樹会



1期生～5期生

こういった同窓会の活動にはできるかぎり協力して頑張っています。来年もぜひ、皆様もご参加ください。





学生が好きで、学食などで学生に声をかけられている都倉学長。この日も学生を支援する友電会に謝意を述べられていました。

「B号館が一番古く、ここで学ばれた方にとっては、建屋が消えていきますが、これも大学の発展の1つの形。少子化が進み、厳しい状況ですが、みんなで力を合わせて50年の伝統のある大学を永続させていきましょう。」

歓談

吹奏楽団がソフトムードの音楽を会場に流してくれました。会場のあちこちで「おー、久しぶりやなぁ」などの声が飛び交い、旧交を温める姿が見られました。



乾　杯

「研究者と呼ばれるより技術者と呼ばれたい」と、ものづくりを提唱されてきた南元学長・名誉教授。「あいさつは短いほうが良い」と乾杯の音頭をとってくださいました。

「今年も皆様にお会いできたこと、嬉しく思います。ハイテク技術に対し、ローテクとは、基盤技術のことを言います。守りの技術です。その大切なローテクである基盤技術を大事にする学生を育てていっていただきたい。」



●●● 柴垣先生、新川先生が教授に昇格



今回の教員昇格で柴垣佳明先生(F28、D33)と新川拓也先生（K29、M31）が教授に昇進しました。ともに、ほぼ40歳で、この若さで教授になられるのは、最も早い昇進です。

柴垣先生は平成９年に母校・大学院博士課程を修了し、平成11年４月から母校の講師に就任。平成18年から准教授、今年４月で教授になられました。新レー



6期生～10期生

大阪の方は神戸でも、京都でも支部がございます。支部の行事にも、ぜひ、皆様ご参加ください。



11期生以降

11期生以降は人数が少なく、驚愕しております。50年という節目でもありますので、若い世代も友電会でも方策を考えていただきますようお願いいたします。



懐かしい友との歓談風景…

ダ観測システムや衛星を利用した大気観測システムの開発、多周波レーダによる大気環境モニタリングなどが専門分野。学生には、無線通信にかかわる学生実験を指導されています。趣味はお子様とのドライブ。

現在、友電会理事として、総務・財務部会で活躍し、卒研室対抗ソフトボール大会でも頑張っておられます。

新川先生は、平成７年に母校・大学院工学研究科前期課程を修了。平成11年に後期課程を満期退学し、同年12月に博士の学位を取得しました。


新川先生

リビングテクノロジー、音声生成、福祉エンターテイメント機器の開発、ネットワークアプリケーションの開発などが専門分野。

現在、友電会評議員、クラブ同窓会の監事として活躍されています。

震災の地・岩手から菅野和夫さんが里帰り

司会者　「東日本大震災の地、岩手県宮古市から菅野さんが総会にかけつけてくださいました。菅野様ステージのほうへお越しください。皆様、拍手でお迎えください。菅野さんは通信工学科３期生で、吹奏楽団OBです。友電会は菅野様及び被災地域支援のため、パソコンとプリンター各４台を贈りました。目録を贈呈いたします。猿渡会長お願いします」


菅野さん

▶菅野さん、あいさつ

「岩手県宮古で被災しました。目に焼きついたのは、郷土の昔の姿がなくなっていることでした。長年教職についていましたが、小学校の校舎がことごとく、机も、黒板も、また、生徒の姿も避難等でありません。全国の学友からメールをいただきましたが、メールにも気がつかず、携帯も使えない、はがきが1番はじめに使える通信手段でした。そのはがきが友電会に届き、パソコンをいただき、皆様のご尽力に感謝しております。」

▶来賓あいさつ


宮本後援会会長

「後援会は電気や工学には素人ですが、裁判所、検察審議会等で、素人が選ばれ国民の考え方が反映されています。素人なりに、これからの大学の発展、学生の勉学、研究に後ろからしっかりとサポートしてまいります。」

▶中締めのあいさつ


平岡クラブ同窓会会長

貫禄十分の平岡クラブ同窓会会長。懇親会のホスト役をつとめた後だけに汗びっしょりでした。

「楽しい、昨年に比べ、色々な方にご参加いただき、ありがとうございました。来年もぜひ、ご参加ください。」

支部だより

■友電会東海総支部「平成23年度総会」開催報告

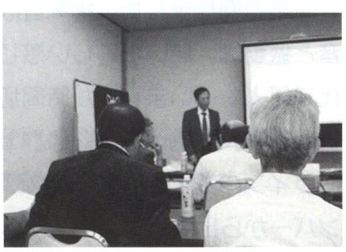
友電会東海総支部は平成23年5月22日(日)、午後2時から名古屋市の「名古屋通信会館」で「平成23年度総会」を開催しました。野村康明氏(F01)が支部長を退き、志村哲樹氏(F07)を新支部長に選出、新たなスタートをきりました。15名が参加、総会に先だち、東日本大震災の犠牲者に対し全員で黙とうを捧げ、哀悼の意を表しました。



(野村前支部長㊨に慰労の花束を手わたす志村新支部長㊧。長年の重責から解放されホッとした様子でした)

野村支部長の挨拶で開会し、平成22年度事業報告・会計報告、平成23年度事業計画・予算(案)および役員の信任の議案が報告され、出席者全員の賛成で承認されました。役員改選では、平成15年度から支部長を務められた野村康明氏(F01)が勇退し、後任は志村哲樹氏(F07)が新任されました。

(受験生獲得の活動や教育方針について説明する松浦教授。就職して即戦力となるよう、企業とのコンタクト状況と成果を話しておられました)



総会終了後、母校・工学部電気電子工学科、松浦秀治教授に「大阪電気通信大学の現状と今後」というテーマでご講演を頂きました。

講演の内容は、母校の受験生獲得に向けた活動や学生が就職して直ぐに役に立つ人材を育成するため、企業と密接にコンタクトしている状況と成果を、データを交えて詳しく説明して頂きました。参加者一同が良く理解出来、活発な質疑も有り母校への認識を新たにする事が出来ました。

懇親会は、今回、東日本大震災の発生で盛大な懇親会を自粛、歓談会という形で行いました。

■わが町の地場産業にふれて ＝川越・岡田畳本店を見学＝　北関東支部

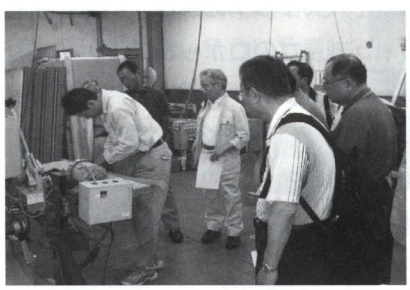
北関東支部は6月18日、老舗産業見学会と懇親会を開催しました。北関東の地場産業を探索しようと始めたもので、今年度は創業120年の岡田畳本店を見学。このあと、川越温泉ホテル三光「湯ゆうらんど」で懇親会、親交を深めました。

関東総支部北関東支部長　山口文男(H07)

訪問した企業は、川越市三光町の岡田畳本店。創業は明治16年で、老舗中の老舗。

畳は如何にして造られているのかなど、岡田社長から丁寧な説明を戴きました。その後、工場内を工程順に見学させて戴き、説明を受けました。お土産に畳製の小銭入れを戴き、ホテル三光に向いました。

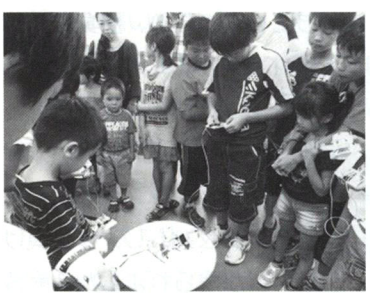
懇親会は、川越市新富町の小江戸・川越のホテル三光「湯ゆうらんど」。午後3時から開会。参加人数は17名で内初参加1名。冒頭、山口支部長が参加のお礼の挨拶と乾杯の発声で酒宴になりました。食事のあと自己紹介、仕事をリタイアされた方、勤務されている方などから企業の情報や仕事へのアドバイスなどがありました。このあとカラオケで盛り上がり、和気あいあいとした雰囲気の中、午後6時頃、閉会しました。



関東方面へ就職を予定されている皆さん、一度参加してみてください。楽しいことうけあいです。

■神戸支部がロボット製作講習会

友電会神戸支部(池本善一支部長)主催の「ロボット製作講習会」が平成23年7月30日(土)、神戸市長田区の神戸ロボット工房で行われました。夏休み中とあって、ちびっ子たち30名と保護者がつめかけ、ロボットの出来上がりに歓声を上げるなど盛況でした。



(出来栄えを競うロボット相撲。ちびっ子らの歓声に目を細めて見守る保護者)

神戸支部が夏休みを利用し、ロボット製作講習会を企画。大阪電気通信大学、同高等学校、神戸市、神戸市教育委員会、大阪日本橋でんでんタウン電子工作教室、大阪電気通信大学友電会が後援。今年で２回目。

講師は大阪日本橋でんでんタウン電子工作教室で活躍されている大野一廣氏(F05)で、注意事項などの説明が行われ、ちびっ子らは真剣に聞き入っていました。

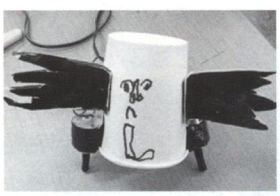

(ロボット製作の指導をする大野氏)

ロボット製作では大野氏の奥様、そして神戸支部のスタッフが各テーブルに補助につき始まりました。

■目を輝かせロボット製作

牛乳パックにアルミ箔を貼って、スイッチを作ります。大野講師の「ホッチキスをしっかりとめてね」という声とともに一斉にホッチキスの音が鳴り響きます。お子様が留めたところをお父様がチェック。おじいちゃんがガムテープを切ってお子様に渡し連携作業。お母様が心配そうにのぞきます。目を輝かせながらロボット製作に取組むちびっ子たち。みんなが一生懸命。

■世界に一つしかないオリジナルロボットが完成



スイッチの次は、いよいよ紙コップのロボットです。結線が難しい…すかさず神戸支部のスタッフが声をかけて、助手を務めます。紙コップに顔を描き、手を付けたり、この世にたった一つのオリジナルロボットの完成です。できたお子様から始動！「やった～できた～、見てみて」。歓声があがります。「将来の技術者」が作ったロボットの出来栄えに、保護者は目を細めて感心されていました。

■成果を競うロボット相撲大会

全員が完成したところで、直系80cmほどの丸い土俵の上で勝負。方向が決まらず落ちてしまったり、勝負が決まらなかったり、線がからまって倒れてしまい、泣いてしまったちびっ子もいました。

■優勝者７名にエアシューターをプレゼント

優勝者７名にエアシューターをプレゼントし、今回負けてしまったちびっ子には、トランプが贈られました。完成したオリジナルロボットを持ち、「ありがとう～」「楽しかった～」と会場をあとにしていました。

■県内産業を訪ねて ＝日産自動車㈱横浜工場を見学＝ 神奈川支部

神奈川支部は７月30日、横浜市の日産自動車㈱横浜工場の見学会を催しました。工場内は全面撮影禁止。カーマニアにはたまらない、昔懐かしい「スカG(スカイラインGT)」の改良型エンジンの組み立て工程。エンジンをかけていただきアクセルを踏んだ感触は、今もその興奮が残っています。

県内産業の先端技術にふれようと企画しているもので、６月にはキリンビール横浜工場を見学しました。今後もあらゆる分野の産業訪問を計画しています。

神奈川支部長　楳田俊彦(F14)



午後２時ごろ現地集合、記念撮影＝写真＝。ゲストホールに案内され工場全体の説明プレゼンテーション。説明のあと、工場見学。「工場内撮影禁止」のためカメラ、携帯等はテーブルに置き工場へ。

MRエンジンの自動化組立てライン。いたるところでロボットが作業して４気筒のMRエンジンを組み立てていました。自動化率は60%超えとのことで人間が少なかったです。隣のラインでは自動化率40%でV6エンジンを組み立てていましたが、多くの人間が働いていて全く対照的でした。

お目当ての「スカG」の改良型VR38エンジンとGT-R実車見学。特別にクリーンに保たれた部屋で空調もしっかり効いているところで手作業の組み立て。

その部屋の前にはGT-Rの実車があり、特別にエンジンをかけていただきました。アクセルを目いっぱい踏むと、アナログメーターが実際の回転についてこられず、レブリミッターまで回りました。排気音は豪快ですがエンジン自体の音と振動は、無いに等しい感じでした。この搭乗体験は交代で何人も行いましたが時間切れ。案内役のガイドさんに『もう時間ですから』と催促され、しぶしぶ後にしました。

ラインの途中やGT-Rエンジンの部屋で沢山の質問がメンバーから出ました。最後には、工場長自らQ&Aコーナーを担当いただき、全体では、とても有意義な見学でした。

また、最後は有志が横浜駅で懇親、盛り上がりました。

参加者は以下のとおり。(敬称略)

吉田榮治(F02)、観野福太郎(E04)、川口明良(F04)、中野正三(E05)、田谷利明(F07)、松下　亮(G10)、大原　洋(F14)、楳田俊彦(F14)、楳田(妻)。

■友電会九州支部第１回総会・懇親会を開催

母校、榎本博行入試部長と森　幸治就職部長をお迎えして、友電会九州支部(支部長　福田　武(E02))の「第１回総会・懇親会」が平成23年８月７日正午から、福岡市中央区の中国菜館「福新楼」で開催されました。

講演では、両部長から大学の学科の紹介や入試日程、厳しい求人状況などが報告されたのに対し、『九州男児』は「母校に恩返しを」と決意をあらたにされていました。



(講演あと記念撮影をする九州支部員。懇親会では、「母校に恩返しを」と、多くの声が聞かれました)



(あいさつをする福田九州支部長)

■総　会

総会冒頭、福田支部長があいさつ。

「九州地区で昨年支部が発足しました。九州支部の会員は350名です。今日は母校から、お二人の部長が来られています。大学の状況をうかがい、支部としても大学へ支援・貢献できるものをつかんでいきたいと思っています」

続いて、議案が審議されました。

平成22年度事業報告と収支決算報告があり、小松周治監査(F06)が「平成22年度適正に処理されております」と監査報告、承認されました。平成23年度事業計画と同23年度予算が提案、承認され閉会されました。



(福田九州支部長に支部開設祝いを手渡す森就職部長)

このあと、大学から九州支部開設のお祝いとして、森就職部長からお祝いが手渡されました。

■講　演

講演では、両部長がそれぞれの立場から具体的な実数を紹介しながら、大学の現状を説明されていました。



(教育方針について話す榎本入試部長)

≪榎本入試部長講演要旨≫

「本学は、今年で50周年を迎えます。４月から入試部長に就任いたしました。現在、大阪電気通信大学には５学部14学科あります。電子工学科は駅前キャンパスで、企業と連携、パナソニックから講師においでいただき、企業工学という講習会を行っています。

電通大は、技術を中心に指導を行っています。知識だけではなく、実際に自分で論理立てて使える技術を習得。自ら考え新しいことに挑戦できる技術者を育てています。手と頭と心を同時に動かす実践型教育を大学の柱にして教育に取り組んでいます。」



(「力を合わせ就職支援を」と話す森就職部長)

≪森就職部長講演要旨≫

「就職部長に就任して２年になります。前任が安先生です。就職状況をご説明させていただき、ぜひ、友電会のご支援をお願いしたいと思います。就職環境では、求人件数は2006年が最高で、2008年のリーマンショックから減少しており厳しい状況です。

現在、企業は求人数を減らすとともに、採用も良い人しかとらない、という企業が増えておりますが、改善するためには企業の開拓も必要であり、大学と友電会が連携を図って就職支援をしていくということが必要です。」

■懇親会

懇親会は午後１時から催されました。植谷吉人副支部長が「今日の両部長をお招きし、現状をお伺いしました。我々卒業生が１人当たり、数名の入学者と就職を斡旋しなければと思いました。そういう意味では、今日の懇親会では情報交換と友好を深めてください。」とあいさつされました。



(力を合わせ就職支援に協力を誓う野田副会長)

乾杯の発声は友電会野田哲治副会長。

「大阪から森先生と榎本先生においでいただいています。ぜひ、電通ネットにご参加いただき、輪を大きくし就職に協力をさせていただきたいと思います。」とあいさつを述べ乾杯。

宴では、自己紹介と学生時代の思い出のほか、さすが「九州男子の集い」。力強い言葉も聞かれました。



(懇親会では、榎本・森両部長の話に対し、「母校に恩返しをしよう」と呼応する九州男子)

「九州電力の関連会社、IT関係、データ通信の会社に勤務しております。森先生の熱弁を伺いまして何ができるかと考えております。こんな会社があるよ、

ということで学生さんへもご紹介いただきたいと思っております。」

「会社では就職の面接をさせていただいていますが、何かお手伝いできることがあればと思っています。」

「大学卒業と同時に市役所に勤務しました。今日、参加しようかどうしようか迷いましたが、はじめて参加いたしました。大学を選んだきっかけですが、IT関係の仕事をしたく、当時の高校の先生に相談をし、経営工学科を選びました。卒業後３名が九州に参りましたが、３人とも元気に活躍しています。現在の大学の学科なども紹介されましたが、公務員を目指す学生は、公務員専門学校に進むというケースが多くあります。たとえば、電通大にも公務員を目指す学生への指導が出来る学科やカリキュラムなどが出来れば、就職難の中、公務員を目指す学生も出てくるのではないか、と思います。」

■閉会のあいさつは友電会、安弘事務局長(F01)。

東日本大震災被災地・岩手県宮古市へ、26名の学生のボランティア隊が派遣され、現地で活動している状況を報告、「部長がおいでいただける支部総会というのは、初めてでとても有意義でした。来年も来ていただけるよう本部共ども頑張りたいと思います。今日はありがとうございました。」

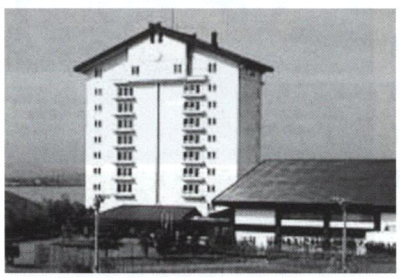
■びわこ支部設立20周年記念総会

友電会びわこ支部(一谷　醇支部長)は平成23年９月24、25日の両日、彦根・松原町の彦根ビューホテルを中心に、「支部設立20周年記念総会」を開催しました。

今年の講演は、NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」で主人公となった『市と浅井三姉妹の生涯』について長浜城歴史博物館学芸員、太田浩司さんを講師に迎え、科学的根拠に基づき語って頂きました。

びわこ支部は「湖国の自然と文化に触れて」をテーマに活動してきました。豊かな自然に恵まれた郷土は、幾度も歴史の表舞台に登場しました。びわこ支部20年の歩みは、県下に散在する史跡を巡り、過去と現在とを結ぶ文化に触れてきました。 今年度は、創設からの足跡を振り返り、さらに未来へつなぐ新たな活動を創造したいと考えています。

詳細は次号(114号)に掲載します。



びわこ支部設立20周年記念総会が開かれた「彦根ビューホテル」。

クラブ同窓会

■体育会柔道部が鳥取県武道館で夏合宿

大阪電気通信大学体育会柔道部は、前期試験終了後の８月６日(土)から２泊３日の夏合宿を、鳥取県米子市(鳥取県立武道館)[宿泊は大山町]で行いました。柔道部恒例の夏合宿は、毎年土日を含む日程で計画し、OBとの交流・親睦も目的のひとつとして開催しています。

これは、現在、監督を務めていただいている第11期卒業生岡本清孝さんの方針で、毎年多数のOBの参加を得て開催しています。今年の合宿参加者は、現役11名(院生2名含む)、OB ９名(監督含む)総勢20名で行いました。合宿は、基本練習、OBとの合同練習および交流戦などに加えて、今回は現地において、監督と交流のある陶芸家の工房にお邪魔させていただいて、全員陶芸を体験するなど心身ともに成長の期待できる合宿でした。

[感謝] 今回の合宿にご参加およびカンパをいただきましたOB諸先輩に対しまして、この場をお借りして、お礼と感謝を申し上げます。また、今回は、都合でご参加いただけなくて、カンパを頂戴しましたOB諸先輩に、お礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました。

体育会柔道部　主将　豊田　猛

＜寄稿　2011/８/17　柔道部部長　新宅　寛＞

■大音総監督、夏合宿同行記

暑い、とにかく暑い８月６日(土)の午後。日本海(美保湾)近くにある陸上自衛隊米子駐屯地の戦車や飛行機を左に見ながら右折して米子ゴルフ場の入口まで行くとその向かい側に県立武道館がある。そこに大型免許を所有する岡本清孝監督(OB会会長)の運転でレンタカーのバスが到着。

道場の入口では心静かに一礼をして、早速合宿の稽古が始まる。大学の道場でも稽古は出来るのだが、合宿では一人一人の意識が高く集中力が高い状態で臨むことが出来る。

宿舎は大山の登山口付近の「ホテル大山」でお世話になった。可愛いちびっ子サッカーの団体さんたちと同宿であっ

た。夕食後、OBの部屋で全員ミーティング、これは学生たちにとって勉強になる。夜遅くまであれこれと語らった。

日曜日の午前は昨日以上に熱心に稽古に励んだ。午後は武道館の都合で会場がとれないので、岡本監督の知人の大山の麓にある現代工芸美術館で陶芸の体験実習に取り組んだ。陶芸は化学の結晶であると講義を受け、実習に入った。学生たちは予想外に集中して創造力を発揮して力作、迷作?を仕上げた。焼き上がりがすごく楽しみである。

その後、風力発電の大風車が回っている近くのコナンに会える町の海岸で水泳訓練(遊びかな?)を行い。夜は焼肉BBQで大いに盛り上がった。

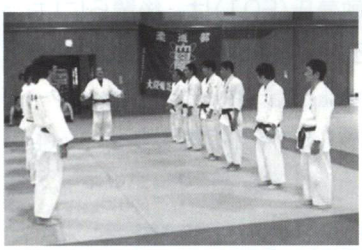
最終日の月曜日はグループに分かれての対抗試合を行った。迫力のある試合で内容も良かった。

全般的に昨年と比べると学生たちは大変、成長したように感じられる。しかし、課題は昨年と同様で入部率が上がらないことである。このことは全員が意識して取り組んでいる。

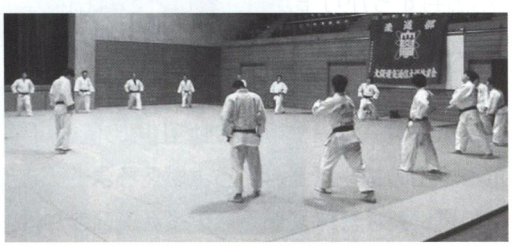
今回のテーマのひとつであるマナーとコミニケーション。例えば今回は監督から2日目、3日目の稽古前にキャプテンと副キャプテンに5分間スピーチの場を与えられた。自分の思いをいかに皆に伝えるかの訓練であった。コミニケーション能力の育成の一つであった。

この合宿に参加した現役、OBの皆さまをはじめカンパ等で参加してくれた皆さまに感謝申し上げて合宿の報告とします。ありがとうございました。

(総監督　大音博司)







[合宿日程]

①出発　8月6日(土)　09：00
　　レンタカー(マイクロバス) 寝屋川学舎発
②稽古　8月6日(土)　13：00～17：00
　　8月7日(日)　09：00～12：00
　　[午後　陶芸体験]
　　8月8日(月)　09：00～12：00
③帰路　8月8日(月)　14：00　現地→寝屋川学舎着18：00

・稽古場所：鳥取県立武道館　鳥取県米子市両三柳3192-14
・宿 泊 地：ホテル大山(本館)　鳥取県西伯郡大山町大山36-3
・陶芸体験：現代工芸美術の里　鳥取県西伯郡大山町羽田井1419-316

■合宿の感想

木村　遼(4回生)

合宿があるまでの約2週間、テスト休みで部活が休みになっていたので、いきなり体を動かすということのないようにランニング等していた。合宿の稽古では十分に動けていた。

統制も主将も務めた身として、合宿のことについてなど後輩に気をつかってやれと先輩にも言われていた。しかし自分は何もしなかった。合宿場について紆余曲折もあったようだが、3回生たちが自分たちで考えて動いていて、問題ないように見えたからである。部室に置いてある旅行会社が持ってきた資料を見たり、部内で3回生が話しているのを聞いたりして判断したのだ。

中島拓也(4回生)

今回は学生最後の合宿だったが意識の低さからか初日の集合に遅れてしまった。今年もOBの方に来ていただき、支援していただいた。来年からは見習って支援していきたいと思う。1、2回生がいないため内野の高校の柔道部のように潰れてしまう可能性があるので部員獲得に積極的に取り組みたい。

前田将秀(4回生)

今回の合宿は僕たち4回生最後の合宿だったので、期間中は全力ですべての事を楽しむ事を頭で考えながら参加しました。その結果としては最終日にその前日までの遊びすぎたツケが回ってしまい、右肩を痛めてしまう結果になりました。全力で頑張ることはとても大切な事ですが、ほどほどにするのもとても大切だなと思いました。

佐藤文哉(4回生)

今回の合宿を通じて感じたことは、我々柔道部は様々な方々の援助を受けて活動できているのだと感じました。私は今まで柔道部の活動は部費で補われていると考えており、別段活動費などのことは頭に入っていませんでした。しかし今回の合宿の為に何人ものOBの方々に資金援助をしていただいた事実を知り、私達はOBの方々の期待に添える活動をしないといけないと感じました。

豊田　猛(3回生キャプテン)

今回の初日に足技が大事だと大音総監督から言われ、練習に励みました。最終日の練習試合で、最初のほうは単発に技をかけていましたが、教えられたとおり足技からかけて投げ技に繋げたら勝てました。これからは足技から繋げられるように課題が出来ました。そしてOBさんから色々なことを教えて頂けたのでOBさんとの繋がりは改めて大事だと思いました。そして新入部員を早く集めてもっと繋がりを多くしていかないといけないと思いました。

内野真志(3回生副キャプテン)

今回の合宿は皆で協力しあい、チーム力が深まったと思います。後輩がいない分、3回生が洗濯をしなくてはなりませんが、それは統制の仕事。部長の仕事もフォローしてい

http://www.yudenkai.org

かなくてはなりませんが、合宿が始まる前は一睡もできない覚悟で挑みました。しかし、先輩方に洗濯を手伝っていただき、早く終わらせることができました。先輩方の手を煩わせないためにも早く後輩をかき集めようと思いました。

花原大貴（3回生統制）

今回の合宿を通して、OBとの交流や繋がりがとても大切だと感じました。OBと繋がりや交流を持っていれば自分が行き詰まったときなど、人生の先輩としてアドバイスをくれたりしてくれるので大切にしていきたいと思います。

森岡　伸（3回生）

この2泊3日の合宿でOBの方々から足技から技をはじめることを目標にしようと言われたので、足技を使っていきました。乱取りをやるにつれて、足技がどれだけ大切かということを教えてもらいました。自分にとってはこの合宿で教えて頂いたことを関西体重別個人戦につなげていきます。 柔道部の合宿にはOBの方々がたくさん来て頂いているので、感謝の気持ちを忘れないようにしていきます。

佐伯一馬（3回生）

3日という短い期間でしたが柔道の技が少しは上達したと思います。校内試合では粘ることが出来たので良かったです。

■「WV(ワンダーフォーゲル)部OB会IN上高地」、今年も楽しみました

「WV(ワンダーフォーゲル)部OB会IN上高地」が8月6、7の両日、長野・松本市の日本アルプスのメッカ・上高地で開催されました。母校の山男たちが踏破した思い出の山々に囲まれたキャンプ地。一般参加を求め1997年から2年に1度開催。今年は23人が参加、アルプスの霊気にふれ、登山にまつわる昔の武勇伝やキャンプファイヤーなどで楽しみました。



■WV部OB会IN上高地村の入村式

6日午後4時、上高地小梨平キャンプ場キャンプセンター受付付近、晴れ。大阪、京都、兵庫などのほか、愛知、神奈川、茨城などからWV部OBや一般参加者23名が集まりました。待っていたのは村長(代表世話人)の猿渡　洋氏(F02)ら先乗り隊。WV部OB会IN上高地村の入村式で参加者にお礼を述べた後、ゲートをくぐる前に記念撮影＝写真＝。参加者は各バンガローに案内され一休み。

■ヘルシー野菜カレーは猪上料理長

午後5時、炊事場では料理人が夕食の用意。参加者の御歳を考えたヘルシーメニューの野菜カレー。今年の料理長は猪上淳巳氏(G06)。テレビの料理番組で得た「隠し味」を披露したいと取組んできたそうです。

作っては家族に試食。また作っては家族に加えご近所に。涙ぐましい努力の結果、高齢者から子どもまで、誰もの舌にあうカレーが出来上がりました。

作ったカレーは直径50cm、深さ30cmの大鍋。レシピは企業秘密で明らかに出来ないということですが、さわりだけを。酢と砂糖を煮込み、色が変わるころジャガイモ、ナスの順番に入れていくとか。

■山男の食事の儀式は感謝の歌から

午後6時、木々の枝を利用して張ったテントの特設食堂で夕食。テーブルの上に料理が出ました。猪上料理長自慢のカレーと野菜サラダ。それにビール、ビール、ビールに酒…。

食事の前に山男は儀式を行います。食べ物に感謝の歌を厳かに歌います。鉄道唱歌の替え歌でご飯の歌です。「♪ご飯だーご飯だーさあ食べよ～♪」と歌い終わると、お行儀よく両手を前で合わせ「いただきます」。初めて料理に手が付けられます。

食事が始まりました。ちぎっては投げならぬ、「飲んでは食べ、食べては飲み、また飲んでは食べ」でカレーはほぼ完食。ビールは梓川で十分な量を冷やしていたにもかかわらず、飲みっぷりのよい酒豪ぞろいのWV部OBには足りません。岩手・宮古市在住の菅野和夫氏(F03)からプレゼントされた地酒一升もあっという間に。初参加の方々はビックリ。ボスの大塚敏兼氏(E01)は、後輩らに「もっと冷やしとけと言うたやろ～。お客さんに申し訳ないがな～」。後輩が恐る恐る言いました。「キャンプファイヤーがありますので」。

■キャンプファイヤー

小雨もすっかり上がり、雲ひとつない夜空。澄み切った霊気の上高地では、手を伸ばすと星に届きそう。絶好の「キャンプファイヤー日和」となりました。

ファイヤーサークルへ移動、山男の儀式。「ヤッホー、ヤッホー。山の神～。♪燃えろよ燃えろよ～天まで焦がせ～…♪」。歌い終えて栄えある点火役を選びました。参加最年少、小学3年生の大高駿輔君(9歳)。指名して名前を呼びましたがなかなか出てきません。池田　清氏(I06)がサポートしてトーチを持たせ、やっと着火。火は灯油をかけすぎたのか回りが速く、空に向かって大きく燃え上がりました。みんな歓声を上げて大喜び。



こうなると藤原公彦氏(E04)の出番。歌詞カードを片手に

リーダーとなり、歌、歌、歌…。「燃えろよ燃えろ」、「アルプス一万尺」、「おいらの恋」など、全曲歌いました。そこで終わらないのが『宴会部長』のいいところ。大高駿輔君のために、「かえるの歌」や「森の熊さん」を輪唱、楽しい上高地の思い出をプレゼントしていました。

ファイヤーの火も残り少なくなったころ、散会となりそれぞれのバンガローへ。

■閉村式と記念撮影

山の朝は早い。午前７時ごろから朝食。８時半ごろには閉村式が行われました。村長が「２年後にまたお会いしましょう」と再会を約し閉村。一期一会の記念に、穂高の山々をバックに記念撮影、散会しました。



大高駿輔君の思い出のキャンプファイヤー

（参加最年少の大高駿輔君（９歳）にキャンプファイヤーの点火をして貰いました。そのときの感想をまとめたものです）

ワンダーフォーゲル部OB会イン上高地村村長　猿渡　洋

僕は大高駿輔です。川口爺ちゃんの孫です。小学３年生９歳です。山のことを話します。びっくりしたことがあります。僕が火をつけたらバーっと燃え出し、そしたら皆が喜んで手をたたいていました。どうしてかな～。

夜のご飯がすんで、お爺ちゃんに手を引かれ暗闇に連れて行かれました。何度も転びそうになりました。たくさんのお爺さん達がいました。そしたら、「大高駿輔君に火をつけてもらいましょう～」と言って僕の名前が呼ばれました。

なんで僕の名前が呼ばれたのかわかりません。じっとしていると、知らないお爺さんがきて、僕の手をとって火のついた棒を持たせました。棒はトーチというそうで、持たせたのは池田というお爺さんでした。学校の先生やお父さん、お母さんから「火遊びをしたら駄目。火事になったらどうするの」っていつも注意されていたから、どうして良いかわかりませんでした。

池田のお爺さんは、火のついたトーチを持つ僕の手を上から強くにぎり、取れないようにして前に連れて行かれました。逃げられません。そして木が沢山つまれた所まで行くと、「さあ、火をつけようか」と笑いながら僕に言いました。「そんなことしたら、先生やお母さんに叱られる」と思っていたら、トーチを前に押し出し木に近づけました。
「火をつけたら駄目だ～。火事になる～」と手を引こうとしましたが駄目でした。高くつんだ木に火がつきました。火は空のほうへ燃え出しました。

僕は恐くなり火のついた棒を投げ出し、お母さんのところへ逃げました。お母さんは頭をなでてくれて「良くがんばったね～」って。僕のお爺ちゃんをみたら喜んで笑っていました。周りの人たちは拍手をしながら「ウォ～」と大きな声を出していました。わかりません。



（川口家家族）

そしたら、藤原というお爺さんが火の近くに行って歌いだしました。赤い顔をしていました。僕のお爺ちゃんもお母さんも一緒になって楽しそうに歌っています。僕は知っている「かえるの歌」や「森の熊さん」があったので小さな声で歌いました。

ご飯を食べて、お酒飲んで、火をつけて、夜遅くまで歌って喜ぶお爺さんの気持ちはわかりません。大人になったらわかるのかな。でも僕は「絶対に火遊びはしないぞ」と思いました。

【登場人物】（順不同）

● 川口のお爺ちゃん　川口明良氏(F04)　● 藤原のお爺さん　藤原公彦氏(E04)　● 池田のお爺さん　池田　清氏(I05)

■参加者名簿

（敬称略）

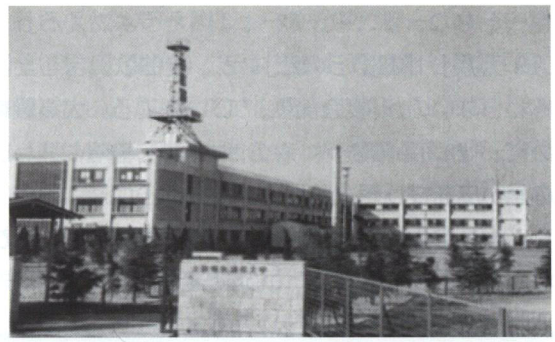
	氏名	入学期	住所	クラブ
1	池田　清	5期	京都市	少林寺
2	〃　奥様		〃	
3	石田　又久	15期	〃	WV
4	猪上　淳巳	6期	奈良県奈良市	WV
5	大野　和彦	1期	神奈川県厚木市	WV
6	大塚　敏兼	1期	茨城県龍ヶ崎市	WV
7	川口　明良	4期	海老名市	友電会 組織部
8	〃　奥様		〃	

	氏名	入学期	住所	クラブ
9	川口　娘さん		海老名市	
10	〃　お孫さん		〃	大高駿輔 9歳
11	河原　愃治	3期	大阪府阪南市	WV
12	坂上　晃一	5期	つくば市	関東支部
13	坂口　雅	8期	天理市	WV
14	猿渡　洋	2期	埼玉県鶴ヶ島市	WV
15	新垣　博幸	7期	兵庫県尼崎市	WV
16	田谷　利明	7期	横浜市	WV

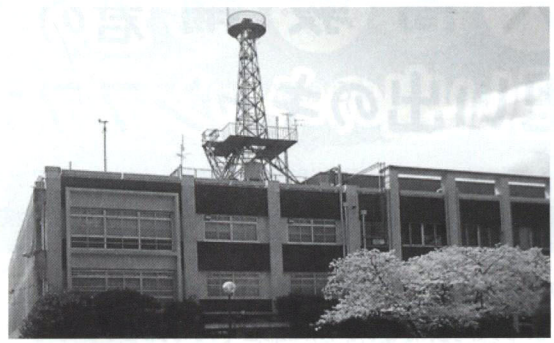
	氏名	入学期	住所	クラブ
17	辻　佳彦	13期	奈良県香芝市	友電会 理事
18	信岡駿太郎	2期	神戸市	友電会 神戸支部
19	〃　奥様		〃	
20	藤原　公彦	4期	京都府相楽郡	WV
21	宮篠　研次	15期	愛知県豊田市	WV
22	村瀬　収吾	3期	京都市	友電会 京都支部
23	吉田　栄治	2期	茨城県守谷市	WV

http://www.yudenkai.org

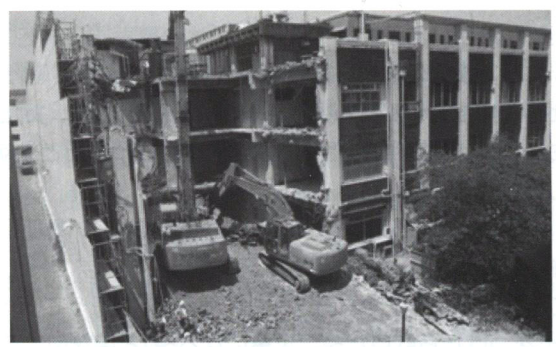
母校だより



完成1年後のBと右はC号館



取り壊し直前のB号館



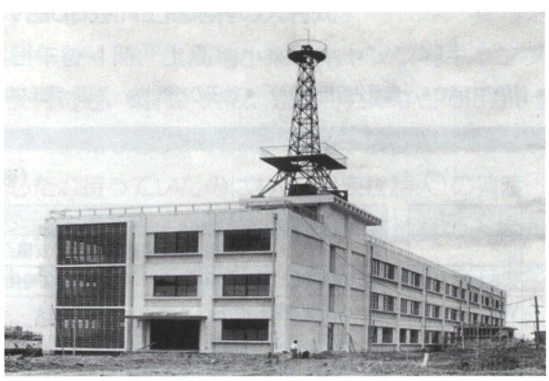
取り壊し工事中のB号館

■母校創設時建設の第１号校舎のB号館が取り壊し

母校寝屋川キャンパスの校舎群で昭和36年５月の創設時最初に完成して以来、思い出深い学舎のB号館が老朽化のため取り壊しされている。１期生は入学後この建物だけで全ての講義を行い、続いてC、D、A、Eの各号館の建設に連なったが、まさに大学創設50年の歴史を刻んだ学舎であった。

その屋上には、大学歌にも「稲穂波立つ河内野に ゆうゆう高き鉄塔よ」と歌われている鉄塔がそびえ、付近に高層建物がない当時は遠くからでも鉄塔を仰ぎ見ることができた。取り壊し直前までレーダーのアンテナが回っていた鉄塔は保存のため、その上部だけを切り取られてA号館の屋上に移設された。

その跡地には、寝屋川キャンパスの現研究室を統合して集めた研究棟を建設する計画もあるが、着工は未定である。１期生のほとんどが来年古希70歳を迎えるときに、50年を経て一時代が終わった感がする。



50年前完成時のB号館

■母校が「原発事故と放射線」をテーマに公開講座



母校は７月18日午後５時から、駅前キャンパスで「原発事故と放射線」をテーマに公開講座を催しました。東日本大震災では、多くの被害にあわれた方がおられ、また、福島原発の事故では、日本のみならず、全世界の方々が不安を抱かれています。そこで、母校では、少しでも市民の方々の不安や疑問にお答えしたいと、公開講座を開催したものです。

講演に先立ち、都倉信樹母校学長は、この「駅前キャンパスは、市民の方々との地域交流の拠点となり、寝屋川市とともに発展していきたい。市民の皆様の関心事である放射線に関して、本日の公開講座で理解を深めていただきた

い。」と挨拶され、また、本学には数人の核物理専門家がおり、特に福田教授は福島県の土壌サンプルの分析を行うなど、研究者の視点から全国共同の放射能汚染分析に深く係わり、重責を担っておられると、ご紹介されました。

この日は大型で強い台風６号の影響で、あいにくの雨にも係らず、150名定員の会場がほぼ満席。メモを取られる方、お子様とご一緒に来られた方など、熱心に聴いておられ放射線に対する関心の深さが伺えました。

講演要旨は以下のとおり。

テーマ／**「原発事故と放射線」**

～１人ひとりが真剣に考えるための基礎知識～

・ベクレルって何？

・シーベルトって何？

・放射線と原発に関する基礎知識について講演し、終了後、質問にもお答えします。

講　師／大阪電気通信大学　工学部　基礎理工学科

福田共和　教授　　**元場俊雄**　教授

＜元場教授の講演要旨＞

●原子核とはどんなものか

原子核は陽子と中性子から成り、陽子の数と中性子の数が異なるものが多数あり、同位体（アイソトープ）と呼びます。同位体の中で安定なものはむしろ少なく、大部分は不安定であり、放射線を出して壊れます。ただし、星や宇宙を別にすれば、大部分は天然にも人工にもほとんど作られず、自然には存在しません。

●核分裂のエネルギーと原発の問題

U-235（ウラン）の原子核は中性子を吸収して分裂すると、質量の一部がエネルギーに変わります。そのときに発生する巨大なエネルギーを利用しようと原発が建設された。しかし、核分裂にともなう破片として、強い放射能を持ったヨウ素やセシウムなどが大量に発生します。連鎖反応を制御するべき原発について、事故のとき「緊急に止める」、「冷やす」、「放射性物質を閉じ込める」という観点から、今回の問題点を詳しく説明されました。

＜福田教授の講演要旨＞

●放射線とその影響を考える。

放射線にはアルファ線、ベータ線、ガンマ線、中性子線等の種類があります。放射能の単位、１ベクレル＝１秒間に１回崩壊を起こす能力ではありますが、話はそう単純ではなく、ある原子核が壊れたときに、何本も放射線を出すことが多く、また、出す放射線のエネルギーもさまざまであり、人体に対する影響もさまざまです。そこで、人体に対する影響を考慮した単位としてＳｖ(シーベルト)があります。

放射線は日常どこにでもあるのですが、身近なものとして、園芸に使用するカリウム肥料を実際にガイガーカウンターで測定され、放射線が出ていることやDNA損傷を引き起こす様子も図解で紹介。

さらに、確定的影響と確率的影響について言及されました。

まだ残る不安材料を解決するため、「ふくしま環境安心プロジェクト」をご紹介されました。

■東日本大震災復興に寄添う母校の心・オリジナルポロシャツが完成、教職員に配布

被災地に寄添う学園の心を表す「オリジナルポロシャツ」がこのほど完成、学園の教職員に配布されました。

母校のこの取り組みは、オリジナルポロシャツを被災地企業へ発注することで、被災地支援を行うと同時に、クールビズ実施期間に際して、業務時間中に職員がポロシャツを着用することで、節電とともに被災地支援を学内外へアピールすることを目的としています。

ポロシャツのデザインは、総合情報学部デジタルゲーム学科、渡部隆志教授。スクールカラーのモスグリーンを基調として、発災の2011年03月11日をコンセプトにデザイン化＝写真＝。



「20110311」をタテ組の漢数字に置き換え、発災の日を表す記号を胸に刻み、多くの悲しみに心を添わせ、復興への祈りを込めたものです。また、デザインの組み合わせは、「フレー、フレー、ゴー」というエールをもじった語呂合わせでもあり母校の支援の心を表してたものになっています。

配布に伴い義援金が募られ被災地におくられることになっています。

思い出と感動の新しいフォトエッセイ

Lifegraph（ライフグラフ）®



一冊からつくれる
あなたの「写真集」

いろいろな写真集がつくれます。

■家族　■趣味（鉄道・車・バイク・盆栽 etc.）
■赤ちゃん　■子供　■スポーツ
■誕生日　■ステージ・発表会
■ラブ・ストーリー　■アニバーサリー（金婚・銀婚式 etc.）
■旅行　■入園・入学・卒業　■退官・退職
■ペット　■作品集 etc.
■自分史

※詳しくはホームページをご覧ください。 http://www.daicolo.co.jp

思い出メーカー
ダイコロ株式会社

日本商業写真家協会
加盟の写真館で承ります。
http://www4.big.or.jp/~jcpa/

大阪本社 〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 ☎06-6944-6311
枚方事業所 〒573-1132 大阪府枚方市招提田近2-8 ☎072-867-3431
東　京・札　幌・仙　台・名古屋・広　島・福　岡・松　山

北から南から

会員の情報交換コーナー「北から南から」を復活いたします。会員の多くの声に応え復活するもので、事務局と広報部会が担当いたします。ご意見ご質問等がありましたら、投稿下さい。

台風12号の被災お見舞い

9月3日早朝、高知県に上陸、四国・中国地方を縦断した大型の台風12号は、各地で大きな被害をもたらしました。亡くなられた方々には衷心よりお悔やみを申し上げますと共に、被害にあわれました皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

集中豪雨の被害が大きかった奈良県、紀伊半島、四国・中国地方には多くの同窓が住まわれています。お宅にご被害がなかったかと心配しております。

何分にも少数の事務局体制では、お見舞いに伺うことも出来ませんが、何かお役に立つことがありましたらご遠慮なくお申しつけ下さい。

なお、安否を確認させて頂くため葉書を同封しています。お忙しいとは存じますがご記入の上、返信を宜しくお願いします。

〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8　大阪電気通信大学友電会　　会長　猿渡　洋
Tel：072-824-3111　Fax：824-1197　E-Mail：yudenkai@yudenkai.org

「同窓の絆」、友電会に感謝

今回、東日本大震災の災害に遭い、「同窓の絆」を改めて感じています。

3月11日には、津波が来る前、余震で揺れている最中に電話はあるし、大学中退した友人からは飲料水が送られて来るわ、同窓会から思っても居ない安否確認は来るわ、嬉しくもあり、驚きであり、感謝で一杯です。会誌「ゆうでんかい」で宮古の菅野先輩が詳しく書いていますが、当方、石巻も宮古同様、大きな被害が有りました。

地震の際は、会社（青果市場）で仕事していました。3分以上ゆれて机の周りを押さえ、女子職員の動揺を抑えるのが精一杯。数分後、停電。ラジオを付け、大地震を確認しました。会社の被害箇所を確認に走り青果物の落下等を整頓するよう指示ました。

私の自宅が標高2mで絶対津波が来ないと安心していました。床上15cm冠水するなんて思ってもいませんでした。自宅も心配で会社から15分ほどの自宅に戻り家の中を確認、本が落ちている程度で妻も無事。大きな被害が無かったと安堵しました。家族に聞くと、「あのまま家にいたら車は水没、自宅2階から出られなかった」との事でした。

津波に遭い、とっさの判断で生死が分かれる。人それぞれにドラマがありました。会社の職員2名を亡くしました。床上浸水でも、被害が少ない方と思えます。

長くなりました。同窓会に感謝を込めて。有り難うございました。宮城県石巻市に同窓生が居るなんて…。会ってみたいものです。

宮城県石巻市、高須賀　則成（F9）

■神田　詔三（E01期）　神村（三）研

航空部大阪電通大及び友電会の発展を祈っております。先般、小沢、水本、河合各氏が定年退職されたとの会誌の記事を拝見し、小生が彼ら3氏と阪大基礎工学部の旧田中研で一緒に過ごした時代が懐かしく思い出されました。

■薄木　一起（F01期）　神村（三）研

東日本大震災への学生たちの貢献を期待しております。

【事務局】本学学生による震災ボランティア隊が8月5日に岩手県宮古市に向けて出発し11日に無事帰ってきました。

■安田　千尋（F01期）　赤松研

幹事さん、本当にご苦労様です。何もかもお世話になりっぱなしで申し訳なく思っています。今後も協力できることは精一杯させていただきます。健康第一に益々の発展祈ります。

■上野　崇男（E02期）　湊研　卓球部

毎年卓球部の同窓会を盛上栄治、表谷準三、中野正三、山口哲生ら各氏と渋谷で新年会を兼ね1月行っています。メンバーの表谷準三氏が1月に他界され、1月9日の告別式に参列いたしました。ご冥福をお祈りいたします。

■日下部　繁（E02期）　長尾研

今回人事異動で東京から九州に転任いたしました。13年間おりました九州に再び15年振りに帰ってきました。68歳ですが「ぜひ来てほしい」との要望に応えさせていただきました。今回が5回目の転任ですが、この年齢で重要なポジションが与えられていることは誠に感謝なことです。私は創立されたばかりの大学2期生ですが、母校の発展を覚え嬉しい限りです。福岡県在住。（教団牧師）

■藤野　雅也（E02期）　林研

大学卒業後40数年、勤務した3Mを無事65歳で定年で退職、3年6ヶ月経過、それまで町内のお世話もできなかったが、その付けが回ってきたのか、役職を4つ受け持っています。毎日が忙しく暮らしています。時間を見つけて大電通大にも協力したいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。末筆ですが、大電通大の益々の発展をお祈りいたします。

■宗谷　利夫（F04期）　松田研

6月18日友電会北関東支部に出席しました。皆様と楽しい1日を過ごし有意義でした。

■岡田　一彦（E04期）　日比研　電子技術研究部

・定年後は庭師として、農業揚水ポンプ技術者として年中忙しく動き回っています。
・近年は海外旅行も楽しんでいます。（6/11～19はスペインへ）
・美味しい米作りに取り組んでいます。減農薬と有機栽培のコシヒカリは関東方面へも出荷しています。

何よりも、元気で頑張っています。京丹後市在住。

■沢辺　伸夫（E05期）　松田研　電子技術研究部

昭和44年卒の電子技術研究部OB9名が何年ぶりかで大阪で食事し、お互いの近況を話し合いました。「でんでんむしの会」と

して今後1年に1回（次回は2012年4月22日）会うということで幹事を決め、お互いの健康を案じながら別れました。あと二人（三波さんと坂上さん）は欠席で、三波さんと連絡が取れません。

■大野　一廣(F05期)　松田研　空手道部

友電会行事が土曜日開催です。現役で働く多くのOB諸氏は休めず働いています。日曜開催なら容易に参加できるのではないでしょうか。日曜開催のご検討をお願い致します。もちろん評議員会も同様に日曜開催をお願いできれば幸いです。

【事務局】理事・評議員には遠方者が多く、日曜日開催では翌日の勤務に差し支えが出ると言う理由で土曜日開催が原則でしたが、今後検討します。

■田代　晃一(F05期)　反田研　航空部

4月に生死の間を2日ほどさまよって来ました。何とか年初の体力に戻りつつありますが、まだ体がふらつき安定しません。薬の副作用です。薬が効くか効かないかは7月末には結論が出ます。それまではアルコールも禁止です。効果があればあと半年続けます。肝がんになっていないとの確認が取れましたので、あと5年は大丈夫と思われます。皆様も早い目の検査をして下さい。手遅れにならないように。

■井上　兼利(E06期)　松田研

4月末に父が95歳で天寿を全うして天国に旅立ちました。母は介護生活を送っているため、まだまだ自身の自由が利きませんが、いずれ近いうちに総会に出席できればと思っています。猿渡会長とは住居も近いことと、北関東地区の懇親会でもいろいろお世話を頂いております。今年は父の死去の後始末や手続きで北関東の総会も欠席させていただいております。皆様方のご健勝とご活躍を心より祈念しております。

■横林　克也(F06期)　湊研　通信研究会

京都にも支部があるそうですが、何か活動はしていますか?

【事務局】すでに11年前に京都支部が発足していますが、毎年11月頃に京都市内で支部総会を行っており、今年も開催する予定です。友電会のホームページ"http://www.yudenkai.org/"をご覧下さい。

■大下　正二郎(G06期)　松田研

現在、私は母校の四條畷キャンパス（実験サポート課）で電気実験の技術指導をしています。今年で4年目になります。経験した技術を少しでもお役に立つように頑張っています。昨年からG学科（6期生）全体の同窓会をしていますが、連絡先がわからない同窓生がいます。協力していただければと思います。

【事務局】友電会事務局に一度ご相談ください。

■高橋　徹(G06期)　沢田研　少林寺拳法部

すっかりご無沙汰しております。総会に出席できずすみません。小生、現在もインドネシアに駐在中でございます。今後もどうぞよろしく。

■宮本　隆史(H06期)　徳田研　アマチュア無線部

アマチュア無線で頑張っています。JA3YBFの復帰を希望致しております。

【事務局】2009年にOBが「無線通信技術部OB会」を結成しJA3YBFを復帰させています。詳細は2011年3月発刊の友電会誌111号に掲載済みです。連絡先は平林隆さん（E11期　ja3olo@jarl.com）まで。

■下村　孝吉(E07期)　神村(三)研　陸上部

早いものです。総会の出席をいつかはと思いつつ早40年。お世話になります。

■秋岡　幸雄(F07期)　中村(亮)研　デザイン研究会

3月末に定年退職しました。趣味等にゆっくり過ごしています。

■細川　修二(F07期)　日比研

卒業して42年懐かしく「ゆうでんかいホームページ」を見させていただきました。

■田甫　佐雅博(H07期)　守山研

昨年、25年間勤めたゲーム会社を退職し、今年4月から特許事務所を京都で開きました。最近は慣れない営業活動をしています。

【事務局】開所、おめでとうございます。ご盛況の程、祈念します。

■高畑　裕(F08期)　林・大野研　通信研究会

支部総会の案内がまったくありません。三重県伊賀地区は東海総支部からですか。それとも、奈良支部からのご案内でしょうか。以前連絡を支部から頂くとのことでしたが、全くありません。伊賀地区にも卒業生が在住していると思いますが、連絡をお待ちしております。

【事務局】両支部に再度確認の連絡をし、また組織部会で検討するように伝えます。

■濱本　猛　(G08期)　室谷研　化学同好会

私は平成17年3月役所を定年退職しましたが、この間某大学院理工学研究科で2年間放射線計測学を専攻し、放射線総合研究所で放射線防護の研修を受けました。この関連で、このたびの3月東日本大震災での未曾有の原子力発電所の災害における東電作業員・消防・自衛隊等の方々の活躍を見るにつけ身震いをしたものです。私が現職であれば、原発事故の放射線防護に関する何らかの任務に就いたものと思っております。そして、改めて原子力災害等の恐ろしさを再認識した次第であります。私は今共済年金を頂きながら、自宅の近傍の市役所で働かせてもらっていますが、日々感謝の気持ちを忘れずこれからも精進したいと思います。そして、一日も早い東北地方の復旧・復興を願っているこの頃であります。

■梶原　修三(H08期)　神村(三)研　卓球部

会員の数が4万3665名という多くの方々を輩出し社会で活躍しているのを誇りに思っています。益々大学が繁栄発展しますよう心から応援致します。三重県在住。

■西山　隆夫(H08期)　川口(正)研　ラジオクラブ

岡山在住です。地方の友電会総会の情報を入手したい。

【事務局】友電会誌またはホームページ"http://www.yudenkai.org/"をご覧下さい。ただし、残念ながら岡山、広島地方には友電会支部はありません。支部設置にご協力頂ければ幸甚です。

■岡井(広) 幸文(I08期)　石桁研　卓球部

元気で孫守りしています。三重県在住。

■矢野　定夫(F11)　奥野研

神戸で通信の世界にドップリつかって仕事をしています。"大阪電気通信大学"ありがとう！共に発展しましょう。

■鬼原　治紀(G11期)　内田研

ここ1、2年、我々の年代では定年を迎えたか、もしくは迎えるかの年齢である。しかし、この年齢になり気持ちは4、50代であり、年相応の知恵がついたとは言い難い。未だに我が言動に反省する日多し。

■岡本　清孝(H11)　木村(義)研　柔道部

新入生を含む現役生達の部活参加状況が著しく低い現状を、何とかして大学と協力してやれないのでしょうか。現状の加入率は全学生の16%台です。

■伊藤　道幸(E12期)松田研

会誌112号ありがとう。今年は大学開学50周年記念の年、大

学、友電会の一層の発展をお祈りします。6月に入りこちらは過ごしやすい気候となりました。3月11日は札幌市でも横揺れがしばらく続きましたが、特に影響のある被害はありませんでした。観光客の予約キャンセルが相次ぎましたが、徐々に元の状態へ戻ってくるものと思います。北海道札幌市在住。

■吉永　英二(F12期)　管研　ESSクラブ

陸上無線技術士一級受験での講習会にOBも有料で参加可能ですか？福岡県在住。

【事務局】問い合わせたところ講習は無料です。また、OBでも受講が可ということでしたが、担当は通信工学科の何一偉先生と小南昌信先生で、講習は夕刻からだそうです。一度友電会事務局にお問い合わせ下さい。

■増田　宣規(E14期)　青柳研　電子技術研究部

2010年農業団体職員を退職、現在果樹(梨、柿など)を栽培中心の農業をやっています。鳥取県在住。

■沖　洋一(I15期)　小沢研　EDPSクラブ

会誌112号に記載の通り、4月9日に行われた小沢研OB会は会員数300人余のうち100名弱の出席があり、盛大に開催することができました。さらに言えば、小沢研OB会には友電会理事がいません。それに比べて関西地域の支部総会は会員数が数千人、多くの友電会理事をかかえていながら、役員以外の出席者は数人といったところです。この違いはいったいなんでしょうか？。

■尾原　道隆(I15期)　水本研

小学校教諭として32年目を迎えました。昨年は初任者研修指導員教員を、今年は少人数指導加配教員として6年算数に教育に力を注いでいます。残り5年間となりましたが、精一杯子供たちに愛情と情熱をもって日々教育に邁進したいと思います。「駅前キャンパス」完成という情報を知り、さらに発展していく母校に、これまで以上に期待が膨らんできました。今後の益々の発展を祈っています。

■上野　英勝(E16期)　超音波研究室　EDPS部

駅前キャパスの完成おめでとうございます。母校の発展を誇りに思います。大分県在住。

■氏家　真(J23期)　前川研

去年、ボランティアの仕事もなくなり、この機会にヨガと洋裁を習っています。ヨガはタオルだけで何とかなりそうですが、洋裁の方は頼みの母のミシンが素人仕様のため故障が多く大変困っています。ミシンは歴史が長く、現在の電子ミシンの修理にはかなり高度な技術が必要なようです。しかし家電製品エンジニア資格所有者の私にとっては意地でも直して一着仕立てるつもりでしたが、今となっては基板の取得も難しく、代用の部品も試しましたが無駄でした。やっぱり、新たに製品を買ってやり直した方が良さそうです。父母の遺品が数多く残っている私にはまだ一仕事残っているようです。大阪府在住。

■田中　篤(E25期)　張研　山岳部

大阪府で工科高等学校の教員をやっています。電通大の進学者も毎年数名居り、大変嬉しく思います。魅力的な教育内容を磨き、これからも特色ある研究機関としての発展をお願いします。友電会の皆様には、いつもお世話になり、ありがとうございます。

【事務局】母校は高等学校との連携をより密接に保つために、特に本学OB高校教員との強い連携を図っています。また、現役教員志望学生と話し合える場を築くなど、今後ともご協力をお願いします。

■渡邉　修(K27)　井上研

友電会誌いつも楽しみに見ています。

■森　哲也(F28期)　宮崎研

母校の発展ぶりに、喜びつつ電車内の広告を拝見しています。東京から帰ってきた同期の友人と今度会う予定です。震災で被災された同窓の皆様に心より、お見舞い申し上げます。

■真鍋　顕宏(G30期)　中村(初)研　ギターマンドリンクラブ

現在はクリエイティブディレクターとして広告デザインや広告マンがゲームを専門とするグラフィックデザイン事務所を経営しております。大学を卒業してから、母校にデジタルアート・アニメーション学科が新設されたと聞き同じ分野であるだけに、今となっては非常にうらやましい限りです。

■吉井　永治(F31期)　奥野研　剣道部

奥野研究室（平成6年度卒業生）は1年に3回程度、同期会（飲み会）を実施しています。卒業して15年を過ぎましたが、続いています。

■小林圭一郎(E32期)　高木研

先日、同級生・同研究室の中部君の結婚式に出席しました。他にも同級生が数人集まり久しぶりに大学時代を思い出し、楽しい時間を過ごしました。

友電会監事、北森弘樹氏の奥様が逝去。しめやかに葬儀・告別式





友電会活動を影で
支えて頂いた奥様、
ありがとうございました。

友電会監事、北森弘樹氏（E04）の奥様の葬儀・告別式が7月26日午前11時から、奈良・生駒市の「メモリアルホール登美ヶ丘」でしめやかに執り行われました。友電会・クラブ同窓会は弔旗を掲げ弔意を表しました。

参列したのは、学校法人大阪電気通信大学、福田國彌理事長代理、中島良造氏や友電会副会長、野村康明氏(F01)、クラブ同窓会会長、平岡臨氏(I07)ら。

式は午前11時から始まり、導師（真言宗佛光寺住職）が入場、厳かに読経がはじまると、会場のあちこちからすすり泣く声が聞こえ、故人の人柄が偲ばれました。

読経の続く中、喪主・北森氏や親族の焼香が行われた後、友電会代表として野村副会長が代表焼香。友電会活動を影で支えて頂いた亡き奥様に「有難うございました。安らかにお眠りください」と囁かれ合掌されていました。

式の後、挨拶に立たれた喪主の北森氏は、「結婚して38年、子供にも恵まれ幸せでした。ご近所の方々にもよくして頂きました。花が好きで今日もいっぱい花を頂きまして本人も喜んでいることでしょう。これからは残された家族で頑張りますので、今後ともよろしくお願いします」と声を詰まらせながら述べられました。

最後のお別れに訪れた弔問客。涙ぐみながら棺に献花、黄泉の国に旅立つ奥様を最後まで見送っていました。

奥様は、今年7月に入り再入院の加療をしておられましたが、7月23日午後5時50分、永眠致されました。逝くには早すぎる62歳でした。通夜は、前日の7月25日、同所で執り行われ、野田哲治友電会副会長ら多くの同窓が参列しました。

第51回 大阪電気通信大学 大学祭

テーマ 「UNITY!」

意味 一致団結して大学祭をもりあげよう

2011年11月4日(金)～6日(日) 寝屋川キャンパスにて開催！

友電会員諸氏の憩いの場
友電会サロン 飲食無料
11月5日 11：00～18：30
Z号館 3階 学生ホール

クラブ同窓会イベント
優秀クラブ活動表彰式
11月5日 16：00～
トークショー・つながり
11月5日 17：00～
いずれもJ号館（エディケーションセンター） 6階小ホール

TECHNO FAIR テクノフェア －放射線検出器を製作－

学園祭と同時開催！

入場無料

11月6日(日) 10:30 ～ 16:00 (受付 10:00～)



「本当はおもしろい」科学の世界を体験してください－母校・テクノフェア実行委員会は、体験イベント『テクノフェア』を寝屋川キャンパスと駅前キャンパスで開催します。最先端の科学技術をわかりやすく紹介、体験できます。

プログラムは、エネルギー・のりもの・福祉・医療など7分野に分かれており、特にバーチャルと体験の「たのしい科学の実験と工作」コーナーでは、国民的関心の高い「放射線検出器」を製作します。

テクノフェアとは？

「科学って、なに？」「技術って、むずかしそう！」そんなイメージをもっていませんか？
それはおそらく、日常生活において科学技術に触れる機会が少ないからではないでしょうか。
テクノフェアは最先端の科学技術をわかりやすく紹介。「本当はおもしろい」科学の世界を体験していただきます。

エネルギー	クイズで学ぶ新エネルギーの世界／次世代太陽電池をつくろう／3色LED回路の製作と色の3原色合成の世界／プラズマを用いたモノづくり～プラズマのおもしろさを体験しよう／化学反応で生まれる電池のパワー／自然エネルギー利用のしくみ
のりもの	ハイブリットポルシェの試乗／いろんな電気自動車の展示／新型蓄電システムをつけた電動自転車の試乗
バーチャルと体験	コンピュータで化粧の色を試そう／人工アリのコロニー／コンピュータの世界を体感しよう／スーパーボールをつくろう／人工イクラをつくろう／高分子をつくろう／見て、さわって、楽しむ「数学」／たのしい科学の実験と工作／ICカードのすべて／3Dプリンタの実演／スーパーボールロケットをつくってみよう／Egg Drop Contest（エッグドロップコンテスト）／ヒトは歩行時にどんな力を地球から受けているかを計ってみよう
福祉・医療	笑いと健康の科学／新感覚音声ゲーム「キキミミ」／からだの不自由な人を支える福祉テクノロジー／衰えた下肢機能を再建・支援するテクノロジー
ロボット	ロボットカーが難コースを自律走行「マイコンカーラリー」／電通大杯 ヒト型レスキューロボットコンテスト2011／歩くんデス、レゴロボット®／車輪型移動ロボットと遊ぼう／倒れない不思議、倒立振子型バランスロボットを体験しよう
レーダー	気象データを見てみよう／地中レーダーで探そう／船舶レーダーを操作しよう
金融と経済	本邦初「メディアセンター」を体験しよう！ Bloomberg実演「情報端末を使った投資の体験学習」

問合せ **テクノフェア実行委員会** 大阪電気通信大学 寝屋川市初町18－8 TEL:072-824-1131（代表）

桜－撫庵

洗練された馥郁の寛ぎを、
ご家族お揃いで、ぜひ…

モダンでありながら品格のただよう味…
創り手のこだわりが個性として表現された
「桜－撫庵」の新和風創作料理。
洗練された馥郁の寛ぎを
ご家族お揃いでお楽しみください。
仕出し料理も承り中!!
http://www17.ocn.ne.jp/~sakurabu/

寝屋川市桜木町1-7 TEL 072-829-2992 FAX 072-826-9494



皆さんは、
私たちの誇りです！





